

鹿児島大学 平成 29(2017)–平成 30 年(2018)年度  
共通教育 英語教育活動報告書Ⅱ

鹿児島大学 総合教育機構

共通教育センター

外国語教育部門（既修語系）

## 目 次

序：本報告書について	1
I. 平成 29（2017）年度と平成 30（2018）年度の英語教育に係る審議概要について	
— 議事要旨と英語教育に係る諸検討を中心に —	1
A. 平成 29（2017）年度の議事要旨	5
B. 平成 30（2018）年度（4 月～11 月）における英語教育に係る諸検討	20
II. 平成 29（2017）年度前期～平成 30（2018）年度前期の大学向け GTEC 実施について	26
A. 実施状況	26
A-1. 大学向け GTEC の実施概要	26
A-2. 平成 29（2017）年度の成績推移	27
A-3. 平成 29（2017）年度前期～平成 30（2018）年度前期の 3 期に亘る成績推移	28
A-4. 大学向け GTEC に係る今後の課題	29
B. 平成 29（2017）年度英語アチーブメントテスト表彰制度とその運用状況について	29
B-1. 鹿児島大学教育センター英語アチーブメントテスト表彰制度	29
B-2. 平成 29（2017）年度の英語アチーブメントテストに係る表彰実施体制	30
B-3. 平成 29（2017）年度の英語アチーブメントテスト表彰受賞者回答のアンケートまとめについて	30
B-4. 表彰制度に係る今後の課題	30
C. 平成 29（2017）年度の学生によるアンケート結果について	31
C-1. CEFR・J に基づくアンケート	31
C-2. 平成 29（2017）年度のアンケート結果とまとめ	36
C-3. 学生によるアンケート結果に係る今後の課題	51
III. 平成 28（2016）年度導入の新英語カリキュラムに係るテキスト・教材について	53
A. 平成 29（2017）年度のテキスト・教材について	54
B. テキスト・教材に係る今後の課題	54
IV. 平成 29（2017）年度 FD ワークショップについて	55
A. 平成 29（2017）年度第 1 回 共通教育センター教員ワークショップ	55

B. 平成 29 (2017) 年度第 2 回 共通教育センター教員ワークショップ	55
C. FD ワークショップに係る今後の課題	56
V. 平成 29 (2017) 年度後期試行の外国語ラウンジ LOL (Languages Out Loud) について	57
A. 外国語ラウンジの英語に係る実施概要	57
VI. 平成 29 (2017) 年度留学生の習熟度クラス調整について	59
A. 平成 29 (2017) 年度留学生の習熟度クラス調整について	59
B. 平成 30 (2018) 年度留学生の習熟度クラス調整について	60
VII. 平成 29 (2017) 年度入学者の共通教育英語に係る学修支援について	60
A. 学修支援の実施概要	61
B. 学修支援に係る今後の課題	63
VI. 結語	63
謝辞	63
巻末資料	64



## 序：本報告書について

本報告書は、平成 29（2017）年度と平成 30（2018）年度合わせての鹿児島大学共通教育英語教育活動報告書となる。報告書は約一年間の下調べ、データ分析、議論などを得て、共通教育センター英語専任教員全員が一緒に作成したものである。内容として、共通教育センター英語教育のプログラム全般について説明しながら、分析・評価を行い、結果として英語教育改善につながるものにしたいと考えている。

この一年間、様々な苦労があったが、それらを乗り越えて 12 名の英語教員がプログラムの改善に努めたことが報告書の成果として認められればと考えている。

ご覧の上、ご意見やご助言を請う次第である。

## I. 平成 29（2017）年度と平成 30（2018）年度の英語教育に係る審議概要について — 議事要旨と英語教育に係る諸検討を中心に —

本報告書には、主に平成 30（2018）年度に行われた英語プログラム全般に係る検証について書くつもりでいる。しかし、平成 29（2017）年度に実施した改善が幾つかあるので、大事な 4 点だけについて手短に述べておく。

- 1) 英語検定試験（外部試験）の単位認定規則を一部見直した。端的に言えば、単位が認められるハードルを高くした。
- 2) GTEC CTE のスコアを成績の 20%に充てているが、GTEC 結果が学生の過度な不利にならないよう、計算の仕方（得点の付け方）を変更した。
- 3) 後期の 10 月から外国語ラウンジ（LOL）の運営を始めた。
- 4) 海外研修や FD の場では、CLIL（Content and Language Integrated Learning）や EMI（English as a Medium of Instruction）に関する教員研修を始めた。

平成 30（2018）年度の英語教育改善に係る審議概要と審議結果の報告をさせていただく。

## 審議理由

現在、大学のアカウントビリティが問われている時代である。各クラス、プログラム、学科・学部では教育の質保証を確認しなければならない。そのため、グローバル化に必要とされている英語プログラムも分析・評価の対象となり、その結果に基づき改善に励むべきである。

しかし、トップダウンの内部質保証では外形的なものが多く、ボトムアップの現場から先ず動くべき、という指摘がある。また、エビデンス（あらゆるデータ）に基づき、自主的・自律的にグループで定期的に評価を行うべき、ということも指摘されている。例えば、大学改革支援・学位授与機構の教育の内部質保証に関するガイドラインでは、「具体的な教育活

動を行う単位である教育プログラムの質の点検が十分に行われず、それゆえに教育の質保証を教員自らが行う取り組みとして捉えていない状況も見られる」と示されている。つまり、現場に評価の文化を涵養する必要がある、ということである。

### 審議計画・審議内容

鹿児島大学共通教育センター外国語教育部門の英語専任教員 12 名は、このような指摘を考慮しながら平成 30（2018）年 4 月から 12 月まで約 8 ヶ月をかけて共通教育センターの英語プログラムについて検証を行い、改善に努めてきた。このプロセスによって、現場にいる我々教員の教授法などの向上も期待できる。また、プログラム評価の経験により、グループとしての評価技術がつくと思われるので、今後も定期的に正しい評価ができるに違いない。

このようなプログラム評価を始めるにあたり、最初に必要となるものはプロジェクト計画である。英語教員は平成 30（2018）年 1 月から 3 月まで計画案を作成し、平成 30（2018）年 4 月から毎月の英語ミーティングで教育のインパクト等について調べることにした。学生が教育を受けて必要な知識やスキルを取得できたか、という設問に答えることにした。また、どんなエビデンスがあるか、という設問を付け加え、エビデンスに基づいた評価を行うことにした。最後に、評価が終わってから、どのように教育を改善できるか、ということを探ることにした。教育審議計画は下記のようにまとめた。

#### 教育のインパクトについて調べること

- 1) 学生がこの教育で必要な知識やスキルを取得できたか。どんなエビデンスがあるか。
- 2) この教育が改善できるか。

参照：大学改革支援・学位授与機構の「教育の内部質保障に関するガイドライン」

#### 審議予定

4 月：英語 IA・IIA

5 月：英語 IB

6 月：英語 IIB

7 月：全体・まとめ

9 月：英語 III

10 月：英語 IV

11 月：全体・まとめ

#### 英語ミーティング前にすること

- 1) エビデンス（あらゆるデータ）をまとめる
- 2) 改善できるところについて考える

（英語ミーティング前の準備するデータ：シラバス、CEFR-J アンケート、GTEC、全学 IR 1 年生のアンケート、英語授業アンケート、授業、試験・クイズ、学生ポートフォリオ、レポート、推奨テキストリストなど）

## 英語教育活動報告書

報告書に入れるもの

- 1) 報告書の概念
- 2) 4月から11月までの教育審議記録
- 3) GTEC
- 4) CEFR-J
- 5) GTEC 表彰者英語学習方法の概観
- 6) 教科書・教材
- 7) LOL
- 8) FD
- 9) 議事録
- 10) 補習教育
- 11) 留学生クラス分け
- 12) その他

このように1年次開講科目を前期に分析・評価し、2年次開講科目を後期に分析・評価した。客観的根拠（つまり、エビデンス）に基づき、把握・検証する作業を行ったが、エビデンスとしてシラバス、GTECの結果、CEFR-Jのアンケート、全学IRのアンケート等の既存データを活用した。授業改善に確実に繋がるよう、このような情報を集めて、共通教育センター英語専任教員の間で共有した。

プログラム評価の成果として、平成30（2018）年度の「英語教育活動報告書」を作成することにした。原則として、センター英語専任教員全員が報告書に寄稿する。このプログラム評価と英語教育活動報告書作成が、この一年間の主な共同作業として進めたものである（平成30（2018）年10月に結成した共通教育センターの第3ワーキンググループも、この評価の取り組みの一部として考えている）。

## 審議結果

主に議論したことを下記のようにまとめた。検証の詳細は、平成30（2018）年度英語ミーティングの第1～第8回英語教育審議要旨でまとめた。

1) 新しいカリキュラムになってから約3年間が経過しているが、初めて教員でシラバスの検証を行った。シラバスの調整を行うことを決定した（31（2019）年度のシラバスから実施できる）。

＊シラバスの簡素化・明確化（教員と学生のため）

＊時間外学修目安の掲載（現在実質60分程度を90分に目標設定）

＊成績基準の項目別を%で掲載（学生のため）

＊英語I～IVの内容について時間をかけて話し合った。

2) 授業の活性化のため、様々な工夫を考え出した（できるだけ早く実施する）。

＊Eラーニングの試験的導入（30年度後期から実施できたXreadingという多読英語学習）

＊新しいアイデアや教授法を試すことができるように、シラバスや推奨テキストなどの柔軟性の認可（31（2019）年度から実施できる）

3) 授業外学修について大いに議論を行った。結果として、

＊現在実質 1 コマ平均 60 分の授業外学修を 31（2019）年度から 90 分に目標設定（目標を明確にするため、様々な工夫が必要：シラバス掲載、非常勤講師通知など）

＊平成 31 年度から 90 分授業外学修目標実現のため、多読の導入、サブテキストやワークブックの普及、ライティング練習の増加などが不可欠（教員間の情報交換も）

4) 予算カットが必然的という共通認識の中、31（2019）年度から総コマ数を下記のように減らす。

＊大学院共通科目英語科目（標準編）の廃止（4 コマ）、英語 IV（再）の廃止（1 コマ）

＊英語 IA・IIA 法文 9 クラス→8 クラス（2 コマ）、英語 IB・IIB 水産 5 クラス→4 クラス（2 コマ）

＊教養教育科目の 国際関係論 と 国際異文化交流 II の廃止（2 コマ）

但し：31（2019）年度には教養教育科目の 国際異文化交流 I と How Language and Music Influences Society が存続で、31（2019）年度中に 32 年度に関して存続・廃止を再検討

5) カリキュラムの運営面を考えた授業改善について議論を行った。結果として、

＊共通教育センター英語専任教員が英語全コマ(英語 I-IV)のシラバスチェックを 32 年度分から開始する予定

＊外国語教育部門長が英語全コマ(英語 I-IV)のアンケート結果確認を 31 年度から行う予定

＊授業参観を導入するかどうか検討する予定

＊学部との英語 IV に関する意見交換会の開催を検討する予定

6) 教職員が充実して働ける環境作りのため、下記のようなことを考え出した。

＊コミュニケーションと信頼の増加への継続的な努力

＊若手（50 歳以下）の活動促進の継続的な努力

＊業務簡素化（例えば、出張業務や書籍購入など）への継続的な努力

その他：

＊GTEC 全般（内容、結果、成績の基準など）について活発な論議が交わされたが、結論に至らなかった。現段階では、GTEC を続けないといけないという共通認識がある。しかし、再検討すべき、という意見もある。GTEC の 2 技能または 4 技能について、予算などとの関係が強いので、理事やセンター長が決める（希望だけ言うなら、4 技能の方がもう少し正確に学生の伸びが測れる）。

＊正課ではない LOL 外国語ラウンジについて審議をあまりしなかったが、スピーキング練習などとして評価している。



\*プログラム検証にあたり、英語 FD の必要性（または FD のテーマ）が確認できた。その上、データの必要性（例えば、マナバでのアンケート）も再確認できた。

\*プログラム検証・評価に関して、結論に至らなかった課題もあったが、課題として取り上げて話し合う意味があったと考えている。

以上、平成 30（2018）年度の英語教育改善に係る審議概要と審議結果の概要報告である。以下、これらに関して、より詳細に記す。

## A. 平成 29（2017）年度の議事要旨

○平成 29（2017）年度 既修語系ミーティング（English Meeting）第 1 回会合 議事録

平成 29（2017）年 4 月 13 日（木）13:00～ 於：教育センター教員会議室

参加：ネバラ、高橋、金岡、トレマーコ、ブレイジア、原、村山、蔵本、日高（敬称省略；以下同様）

記録：日高

### [審議事項]

#### 1. GTEC 試験予定表について

- 金曜 3 限英語 III で、授業日に GTEC を実施できないクラス（ネバラ先生、金岡先生、日高の三教員担当）は、予備日 7 月 12 日の 6 限、ネバラ先生 135 号室、金岡先生 137 号室、日高 136 号室で対応する。試験日に欠席した受験者は蔵本先生が 123 号室で対応する。予備日 7 月 19 日は、トレマーコ先生のかわりにブレイジア先生が対応する。
- 7 月 21 日森先生のクラスを 6 月 28 日ネバラ先生のクラスと入れ替える。

#### 2. [平成 28 対応] 平成 28 年度英語教育活動報告書作成について

- データ整理中。結果が分かり次第対応する。
- アンケートの処理は、必要に応じて統計の山田先生に手伝いをお願いする。

#### 3. [平成 29（2017）対応] 外国語教育部門（英語）：担当部門と担当者について（年間計画・年間行事の確認含む）

- English Meeting→科目分科会→共通教育センター運営委員会で審議する。
- 平成 29 年度仕事内容確認案は各自で確認の上、加筆・修正すべき事項があればネバラ先生へ連絡する。

#### 4. [平成 29（2017）対応] 第 1 回 FD ワークショップについて（計画案、継続審議）

- 8 月 10 日（木）に開催予定。
- 外部の人を招聘する場合は予算を計上する（ワークショップのスケジュールを要検討）。
- 第一回ワークショップ（8 月）
  - ・英語 III のフィードバック

■ 第二回ワークショップ（２月）

- ・スピーカー（上智大学の池田真先生？ CLIL について）を招聘する場合は、３月も検討する。
- ・前回のプログラムが好評であったため、修正を加えたうえで同様のプログラムを行う。

5. [平成 29（2017）対応] 授業運営経費（英語）について

- 約 16 万円の予算に対し、外国語教育部内既習語系教員からは『はじめての GTEC』複数冊と製本機購入の案がある（他教員からの案も踏まえて要全体調整）。

6. 推奨テキストのリストについて

- 推奨テキスト以外のものを使いたいという相談を受けた場合は原則的には断り、推奨テキストを使用してもらう。

7. その他

- GTEC による評価について対応を検討すべき（学生の成績が芳しくなかったため）。
- 外国語サロンについて、進行状況を毎月 **English meeting** にて報告する。視察が必要である場合は相談して決定する。7 月末を目途に計画を提出する。

[報告]

1. 英語Ⅲクラス編成について（平成 28（2018）前期 GTEC スコア利用）  
共通教育係にて作成（小路口主任）。

2. 第 2 回 FD ワークショップを終えて（2/14 Tue 13:00-15:00 Common Room 2）

- アンケートの結果を考慮して、次回はセッションの数を減らし、ディスカッションの時間をより長く確保したい。

3. その他

次回の既修語系ミーティング予定：5 月 18 日 13：00～（第三週）

○平成 29（2017）年度 既修語系ミーティング（通称、English Meeting）第 2 回会合 議事録

平成 29（2017）年 5 月 18 日（木）13:00～15:00 於：共通教育センター教員会議室

出席者：ネバラ、高橋、金岡、トレマーコ、ブレイジア、原、村山、日高、藏本（計 9 名）

記録：藏本

[審議事項]

1. 平成 31 年度新設の工学部総合コース（45 名）について

■本コースへの入学者は1年前期の成績と本人の希望により、1年後期に各学科へ振り分けられる。

■I期の火曜日に連続する3コマの確保、公平なクラスの振り分けができるよう同一授業、同一の成績評価にすること、4つもしくは5つのクラスにするかについて、工学部と交渉中である。

7月の分科会までに決定する必要がある。

English Meetingでは現状のコマ、クラス分け（工学部）の中に新設の入学者を従来どおりの振り分けで入れる方向で合議を得た。理由として：

→クラスサイズが大きいため、レベルに差が出てしまうという懸念がある。

→また、英語IBではライティングのフィードバック作業に負担が生じる。

→I期の成績のみで、各学科へ振り分けを行うことは難しいのではないか。

→総合コース用にコマ新設となると、マンパワーの負担が増える（非常勤のコマ増は困難）。

## 2. 平成29（2017）年度第1回FDワークショップについて（継続審議）

### ■第1回 FD

→7月にFDの内容を提案し、事務の方から担当者（常勤、非常勤講師）へ連絡して頂く。

→テーマ：Active learning、CLIL、Presentation / Speaking / Speech、Listening、Reading、Writing

→事前アンケートで参加希望調査を実施する。富山係長にご協力を得る。

### ■英語III担当者との情報交換会（第1回FDの後に実施する。）

→英語AB開講時、情報共有として情報交換会を実施した。

→事前アンケートを実施する（担当者、非常勤も含め）。また、当日用のアンケートを準備しておく。

→教員への連絡と集計を事務の方（富山係長）へ依頼する。教員への連絡は7月3日に発信する。

→当日の内容をWeb公開する。（小路口主任に依頼する。）

### ■第2回 FD

→講演者候補について、一週間以内に決定する。予算申請の段階では、講演者は未定でも構わない。

→候補者の順位を決めておく。なお、他に候補者がいる場合、一週間以内に原先生、藏本先生へ連絡する。

（候補者順位：①上智大学 池田先生 ②東洋英和女子 笹島先生 ③甲南大学 Mr.Jones ④新潟県立大学 Mr.Brown に決定）

→講演会のあと、英語IVの意見交換会を実施する。

■昨年度、新カリキュラムの始動にともない、英語IA/IBの情報交換を実施した。本年度は英語IIIとIVの方に重点を置く為、英語IA/IBの情報交換は見送る。

### 3. 平成 28 (2016) 年度英語教育活動報告書について

- 報告書作成をテーマごとに各担当者に依頼している。締め切りは 9 月 22 日としている。
- 10 月の科目分科会にて報告する。報告書は電子媒体レポジトリとして作成し、本部への報告は紙媒体（製本機を使用）で報告する。

### 4. 外国語サロンについて（継続審議）

- 英語：10 週間（10 月 10 日・12 月 21 日）のパイロットスタディを実施する。毎週 30 分のセッションを 3 回、45 分のセッション（上級者向け）を 2 回実施する。最終週はクリスマスイベントを企画する。314 号室にて、5 限目に実施する。自由参加形式とする。参加した学生からコメントをもらう。非常勤講師として Ms. Hannah Tomalin に協力をもらう。
- 韓国語：毎週水曜日 12:00-13:30 に実施する。韓国人留学生、留学経験者と共に昼食を食べながら設定したテーマについて話す。
- 中国語：中国人留学生を中心に会話と交流ができる場を提供する。また、授業で習ったことと関連付けたタスクを行う。成績に反映させる。
- フランス語：鹿児島大学の学生のみと限定せずに外部にも公開する。教員と TA 形式で行う。映画上映、九州で活躍しているフランス人をゲストとして迎える。また、フランス語実用検定試験の勉強も行う。
- ドイツ語：平成 30 年度 4 月からの参加を予定している。  
今後、外国語サロンの冊子作成を求められる可能性がある。ネバラ先生を編集者とする。
- パイロットスタディを経て、正式な外国語サロンとして平成 30 (2018) 年度に開始する。  
授業のオリエンテーションを利用し、学生に宣伝する。
- Chat だけではなく activity も概念に入れられるような方向へ持っていく必要がある。
- 人数の関係上、対象を 1、2 年生に限定する。

### 5. 年間行事について

- 日程の確認をした。

### 6. 留学生のクラス振り分け時期などについて

- 現在、留学生対象のクラス分けは、4 月に入ってからネイティブの先生との面談後、正式にクラスを決定している。そのため、最初に登録されたクラスのテキストを既に購入している留学生がおり、クラス変更決定後、テキストを再度購入することになってしまう留学生がいる。また、事務の方がテキストをコピーして対応して下さっている。  
→入学時の TOEFL と TOEIC のスコアでレベルチェックし、各クラスに振り分ける。受講者リスト作成前に、クラスを決定するのが理想である。  
→受講生が TOEFL と TOEIC を受験していない場合、Cambridge の paper test exam か GTEC の冊子についている模擬試験を受験してもらい、換算表で判断する。さらに、トレマーコ先生に面接をしてもらい、クラスを決定する。（継続審議）

### 7. その他

[報告]

1. GTEC 試験予定表について

- 学生用受験マニュアルをラミネートして設置する。
- 5月24日に担当者へ GTEC 関連資料（予定表、事前準備事項、実施手引き、トラブル対応マニュアル等）を配布する。
- GTEC 点数の基準を学生に配布する。
- 6月にベネッセの GTEC 業者担当者が来学する予定。6月1日（木）もしくは8日（木）に英語教員との面談希望を出す。

2. 授業運営経費（英語）について

- 外国語科目分科会にて、平成 29（2017）年度授業運営経費（使用内訳）の報告があった。

3. 専門英語の読み替えについて

- 農学部 生物資源 科学英語→「英語 IV」へ読み替えの可能性がある。
- 他学科についても、科目の読み替えをする可能性ある。

4. 平成 29（2017）年度入試の英語外部試験申請について

- 内部単位認定システムの見直しの際、参考にする。

5. その他

- 入学前後の補習教育について教務委員会の審議終了後、English Meeting で検討する。（e-learning、集中講義の受講後、学生がどのクラスに振り分けられたか等）

次回の既修語系ミーティング予定：6月15日 13:00～（第三週目）

以上

○平成 29（2017）年度 既修語系ミーティング（English Meeting）第3回会合 議事録

平成 29（2017）年 6 月 15 日（木） 13:00～14:30 於：共通教育センター教員会議室

出席：ネバラ、高橋、金岡、トレマーコ、原、ブレイジア、村山、蔵本、日高

記録：日高

[審議事項]

1. 平成 31 年度新設の工学部総合コース（45 名）について

- 英語のクラスについては、希望に沿った形で編成可能とのことなので、現行の習熟度別クラスの中に総合コースの人員を割り振りすることを念頭に置く（現行システム利用）。

2. 平成 29（2017）年度 FD ワークショップと英語 III の意見交換会について

- 進行やそれぞれのセクションの担当は以下とする。

- ① 司会進行（原先生）
- ② 閉会（村山先生）
- ③ Writing（ネバラ先生、トレマーコ先生）
- ④ Speaking（ブレイジア先生）
- ⑤ CLIL（蔵本先生）
- ⑥ Listening（原先生、日高）
- ⑦ Reading（高橋先生、村山先生）
- ⑧ Active Learning（金岡先生）

■ 後期 FD ワークショップのスピーカー招聘については、10 月以降に順次準備を進めていく。上智大学の池田先生にはセンター長名で講師依頼をする（蔵本先生を中心に準備を進める）。

■ 英語 III に関する意見交換会への準備状況は、以下である。

- ① 意見交換会は前回の説明会同様、FD ワークショップ後に、Common room 2 にて 15:00～15:30 の時間帯に開催する。
- ② 連絡のための資料は作成済みで、小路口さん、富山係長と確認済みである（書類は、意見交換会のカバーレター、英語 III に関する事前アンケート、意見交換会参加後のアンケートの 3 枚）。
- ③ 資料は 7 月 3 日をめどに送信予定で、メールまたは紙媒体にて、出欠の可否と事前アンケートを教務へ返信してもらう（締め切りは 7 月 21 日 16:00）。これ以降、事務と金岡先生で出欠とアンケートの確認を行い、当日用の資料を作成する。

### 3. 外国語サロンについて（継続審議）

- ブレイジア先生を全体責任者とし、既修語、初修語の担当者と連携して運営する。
- 約 50 万円の予算から、必要なものを検討する。
- 6 月 27 日（火）3 限、217 号室にて、関係者で運営や予算等についてのミーティングを行う。既修語の教員の参加は自由とする。
- 7～9 月にかけて、本格的に準備を行う。

### 4. 英語 I A 授業進度情報シートについて

- 前期担当者と後期担当者間で引継ぎを行うが、後期で使用する教科書の選択は自由とする。
- 教科書は推奨テキストから選ぶことをもう一度確認する。

### 5. 英語外部試験単位認定規則の一部見直しについて

- 英語の外部試験単位認定規則の中に IELTS が含まれていないので、導入を検討したい。
- 英検二級は高卒程度とされているため、大学の授業免除対象として認定すべきか検討が必要である。
- 高校在学時に取得した資格（とくに英検 2 級）を大学の授業免除として使用することに関して、検討が必要である。
- 原先生を中心に、単位認定試験のレベルと妥当性について検討し、各外部試験の得点の換

算表を 9 月末までに作成する。

- 継続審議とする。

#### 6. GTEC の評価基準の一部見直しについて

- 今年度は変更案 1 の最高点 400 点 (L200、R200) を採用し、来年度は変更案 2 の最高点 330 点へ移行する。
- 各教員が昨年度の成績をもとに今年度の評価基準を設定しているため、今年度から最高点 330 点の案へ移行するのは難しい。また、統計の山田先生より、突然評価基準が変わることにより学年間の成績が平等でなくなるため、段階的に変更するのが望ましいとのアドバイスもあった。

#### 7. その他

##### [報告]

##### 1. その他

- 他学部と兼務するにあたって、仕事の依頼が来た場合は安請け合いしないことが望ましい。個人で判断するのではなく、まず事務員やセンター長に相談すること。
- 開講コマを調整するにあたり、人数の少ない授業は減らしていく。
- 71 歳以上にあたる教員は雇用しない。
- 今後 GTEC の分析と検討を行っていく。
- e-learning の導入を検討している。
- 英語 IV を担当する教員を学部の教員へと移行することを検討している。
- 10 月から新たに雇用する 2 名の研究室の場所を検討中である (現在稲盛アカデミーが候補)。
- 予算 20 万円の使い道について、希望があればネバラ先生へ伝えること。
- GTEC 実施にあたって、受験後の成績の見方や、得点を TOEIC の得点へと換算するウェブサイト、また、アンケートに平成 29 年のオプションが存在しないことから、平成 28 年度を選択する情報を流すよう事務対応を行う。

次回の既修語系ミーティング予定：7 月 20 日 13:00～ (第三週間)

○平成 29 (2017) 年度 既修語系ミーティング (通称、English Meeting) 第 4 回会合  
議事録

平成 29 (2017) 年 7 月 20 日 (木) 13:00～14:30 於：共通教育センター教員会議室

出席者：高橋、金岡、ネバラ、ブレイジア、原、村山、日高、藏本 計 8 人

記録：藏本

##### [審議事項]

##### 1. GTEC の評価基準の一部見直しと 2017 年度前期の GTEC 受験実施の状況について

- 今学期の GTEC から 400 点以上を満点と設定する。(Listening、Reading それぞれ 200

点以上を満点) とする

■GTEC 予備日について

7月12日・水(通常授業3クラス+98人)、7月19日・水(82人)にそれぞれ受験した。  
今回は単位認定者を予定人数に含んでいなかったため、予想より上回った。次回は100人から150人を想定し、準備する。

■CDが途中で止まるトラブルが頻繁にあった。パソコンとCD-ROMを変えて受験し直してもらう方が、確実である。

■成績は8月1日の配布を予定している。

2. 平成29(2017)年度FDワークショップと英語IIIの意見交換会について

■FDワークショップの連絡を小路口主任に英語教員宛に一斉メールで送信して頂いている。  
締め切りは7月25日(火)。

■英語IIIの意見交換会のアンケートと出席について小路口主任が7月3日に一斉メールを送信している。締め切りは7月21日(金)。

3. 外国語サロンについて

■外国語サロンの予算は、50万円を講師費用、250万円を工事費に使用する予定。共通教育センターの管理・運営費の20万円を英語サロンの経費として優先的に使用し、英語科では教材等のために10万円の使用を予定している。

■名称の決定について

学生254名に投票してもらい、英語サロンの名称をLOL(Languages Out Loud)に決定した。看板、旗を美術部がデザインを担当して、作成する。ポスターも作成し、後期の授業でチラシを配布する。

4. 英語外部試験単位認定規則の一部見直しについて

■英検、IELTS、TOEFL iBT、TOEIC、Cambridge Englishの検定試験を利用する。

→GTEC CBT、GTEC for Students、GTEC、TEAP CBTは削除：大学の授業と関連する資格試験の利用が望ましい。

→総合的スコアより、技能別のレベルに注目することが大切である。4技能それぞれの最低ラインを決めておくことも重要である。

※継続審議：英語III・IVで単位認定を認めるかについて。

[報告]

1. その他

■農学部英語IV、V、VIについて

将来的に農学部と英語IV、V、VIについて農学部との話し合いが望ましい。

共通教育センターとしてはESPへの移行が使命のため、内容は従来通りの専門英語に沿ったもので実施する。名称を変更するのみでいいのではないか。後期終了時、英語IV、V、VIのアンケート結果を元に内容を見直す必要がある。



■共通教育センター英語教員の大学院のコマ数について

現在、共通センター教員 4 人で大学院の授業を担当しているが、受講生の人数が少ないため、コマ数を減らす計画がある。特に、後期は受講生が減少している。検討するため、本年度の学生に感想を募る。現在、担当 8 コマを 4 コマに減らし、前期のみで 4 コマ、もしくは前期後期で合わせて 4 コマにする。各研究科へコマ数を減らす意向について説明した方がいいのではないか。

■志願者 1、333 人削減への対応策について

魅力ある大学のため、工夫が大切である。例：外国語サロン、出前出張等

■平成 28（2016）年度後期「授業改善メモ」の中で、「環境化学プロセス英語」の担当教員から、工学的な英語を学ぶことの必要性や重要性を学生が意識するような授業計画の必要性についてコメントがあった、

■第 66 回九州地区大学教育研究協議会について

福岡工業大学にて開催。高橋先生、村山先生が平成 28（2016）年度の共通教育センター英語授業改革に伴う GTEC 実施について、その後の進展について報告する。

次回の既修語系ミーティング予定：9 月 21 日 13:00～（第三週目）

継続審議：英語サロン、GTEC、単位認定

以上

○平成 29（2017）年度 既修語系ミーティング（通称、English Meeting）第 5 回会合  
議事録

平成 29（2017）年 9 月 21 日（木）13:00～14:34 於：共通教育センター教員会議室  
参加：ネバラ、高橋、原、ブレイジア、村山、藏本、日高

[審議事項]

1. 英語外部試験単位認定規則の一部見直しについて

- 英語Ⅲについては、資格試験による単位認定は認めない（プロジェクト型であり、資格試験で証明される技能と単位習得に必要とされる技能が異なるため）。
- 入学以前に取得した資格の単位は、二年以内なら認定する。
- 外国語科目分科会の審議事項にあげて判断を仰ぐ。

2. GTEC 受験後期スケジュール（案）について

- 資料を確認する。

3. 英語教育活動報告書について

- 外国語分科会で審議する。

4. 夏の英語 FD ワークショップと英語Ⅲの意見交換会を終えて

- 当日 1 名飛び入り、2 名キャンセルで計 20 名が参加した。時間配分はうまくいった。

- 次回はディスカッションのテーマを変えたい（四技能などいつも同じテーマである）。
- 先生方が忙しい時期を避けてワークショップを開催したい（現状維持か、年一回にするか継続審議）。
- 後期のワークショップ講演者の池田先生より、年内に講演のトピックについて提案してほしいと連絡をいただいた。
  - ・テーマ案：共通教育として専門分野を英語で教えることについて
  - ・模擬授業をしていただけないか打診する（午前中に模擬授業、午後に講演）。講演の中に、理論面と実践面の両方を織込む方法もある。
  - ・テーマについては、11月から12月中旬までに決定し、それに基づいて告知を行う。
  - ・10月に入ったら旅券や宿泊の手配を行う。

#### 5. 教科書選定について

- 11月を目途にネバラ先生、原先生、日高で選定を行い、12月に全員で検討をする。
- リストに追加してほしい教科書を事前にアンケートで募る。

#### 6. 補習教育について

- 補習経験のある学生に関する基本的情報について、担当者間で情報共有を図る。
- 支援や指導内容等は、現場の判断に基本的にゆだねる。
- 後期であれば年末頃までに、前期であれば、成績報告時かお盆前までに概況を知らせてもらえるようなシート等でのやりとりをする（前期単位の可否、その他）。
- 1年次の取り組みを次の担当者（英語Ⅲ）へ申し送る。
- 大学院生に英語のチューターをお願いする方向で進める。
- 組織的な運用時期は、平成30（2018）年度とするが、今年度後期から可能な範囲でパイロット的に部分的に行う。
- その他は、配布資料を参照する。

#### 7. 英語Ⅳの意見交換会などについて

- 学部の先生向けに金岡先生、ネバラ先生、村山先生が公開授業を行う。これをもとに12月に意見交換会を行い、平成30（2018）年度のカリキュラムに結果を反映させる。

#### 8. その他

- 教育センター教員評価の見直しについて
  - ・12月に意見を表明するため、資料に目を通して、11月に再審議を行う。既修語、初修語の教員で意見を交換する。

#### [報告]

##### 1. 外国語サロンについて

##### 2. 10月新採用の二人について

- 現在の英語教員の役割分担についてはそのまま継続で、新しく着任される先生に負担がな

いよう配慮する。

### 3. その他

#### ●海外交流説明会

・10月11日、10月24日の6限に、海外交流説明会（ハワイ研修、シンガポール研修など）を行うので、学生に連絡してほしい。

次回の既修語系ミーティング予定：10月19日13:00～（第三週）

### ○平成29（2017）年度 既修語系ミーティング（通称、English Meeting）第6回会合 議事録

平成29（2017）年10月19日（木）13:00～14:00 於：共通教育センター教員会議室

出席者：ネバラ、高橋、金岡、トレマーコ、原、村山、ハムチュック、ギュレメトヴ、  
日高、藏本（10名）

記録：藏本

#### [審議事項]

##### 1. 英語外部試験単位認定規則の一部見直しについて

■外国語科目分科会にて、TOEICの点数が学生にとって高いのではという意見があった。

12月の分科会での継続審議事項として扱うことになっている。

##### ■修正予定箇所について

・TOEIC、IELTSの得点表記について：各セクション・技能ごとの得点を表記する。事務の方で照合が必要な時に確認しやすいように修正する。

・資格試験の有効期限について：有効期限を「2年間」で、現状維持する。

→英検（留学目的の場合）とTOEIC（4技能）のスコアの有効期限は2年。文科省も共通教育センターの英語も4技能を重視しているという点から、検定試験の有効期限と合わせる。

→入試課のアドミッションポリシーでは、高校生へ過去3年のスコアを求めているが、単位認定においては検定試験の有効期限に合わせる。

##### ■その他

・英語IIBの単位認定を認めていいのか。授業で経験する「学び」を妨げることにならないか。

→今回の得点見直しで、改善される。

##### 2. GTEC受験後期スケジュール（案）について

■再履修の学生へ予備日に受験することを忘れずに連絡する。

##### 4. 補習教育について

■教育学部、理学部、農学部、工学部、水産学部推薦入試で入学した学生について：

・センター試験を受験しない学生は、物理・英語・数学の力が足りない。英語は入学前に勉強してもらっているが不十分である。入学後の共通教育の英語との連結が上手いかないため、教務より改善を求められている。

- ・対象学生の入学後の様子について、情報交換する必要がある。英語Ⅳまで受講することになっている学部もあり、改善する必要がある。

→後日、教務から対象学生の所属クラスについて、連絡がある予定である。来年4月から担当教員の方で、改善を求められている。

#### 5. 英語アチーブメントテスト表彰制度について

- GTECを受験した1年生対象に、前期と後期の点数の伸び（差）に対して「努力賞」、また最高得点者に対して「優秀賞」を授与する予定である。

→今までは前期からの伸びだけで判断してきたが、さらに学年（1学年）の2回目のGTECの平均点をクリアした学生を表彰対象にするべきではないかと提案する。

#### 6. その他

- 教員評価の見直しについて：

中筋先生（初修語）と11月16日（木）2限に部門会議を開く予定である。書記は蔵本先生が担当する。

#### [報告]

##### 1. 外国語サロンについて

- 順調に参加人数が増えてきている。来年度の予算を増やしてもらえるように参加人数をできる限り増やす。

##### 2. 英語Ⅳの意見交換会などについて

- 現在、英語Ⅳテキストリストから選ぶか、個々で選んだテキストで実施している。アカデミックリーディングへの橋渡しを目標としている。担当学科の先生と連絡を取り合って連携をとることが重要である。論文は難易度が高いので、アカデミックジャーナル、レビューから始めることを勧める。

##### 3. 英語教育活動報告書について

- 10月末まで見直し、修正をする予定である。製本機を使い、何部か作成したものを本部へ提出する予定である。

##### 4. 2月13日の英語FDについて

- 講演のトピック：Teaching English with content and teaching content in English: Experiencing CLIL (Content and Language Integrated Learning) as a competency-based university education)
- 理論と実践について2コマ（90分×2コマ）実施することに決定した。
- 今後、上智大学宛に池田真教授へ招致依頼書を送付し、手続を進める予定である。

##### 5. その他

- 大学院共通科目・特別コース推進部会にて、カリキュラム、授業の在り方に関する議題

があがった。共通教育センターの教員が担当している科目は、コマ数を減らす方向で調整する予定である。30年度から変更する予定である。

■グローバルセンターの方向性について：

人員配置について、共通教育センターで採用予定の4名はグローバルセンターと兼務してもらう可能性がある。

■異文化理解のワーキングを立ち上げる予定である。原先生が英語担当として出席する。

■センター試験の監督業務について：

本年度、共通教育センター教員も協力する可能性がある。大島試験会場にて、監督業務を11日（木）～15（月）に従事する。

※ 次回の既修語系ミーティング予定：11月16日13:00～（第三週間目）

以上

○平成29（2017）年度既修語系ミーティング（通称、English Meeting）第7回合  
議事録

平成29（2017）年11月16日（木）13:00～14:30 於：共通教育センター教員会議室

参加：ネバラ、高橋、金岡、村山、原、ハムチュック、蔵本、ギュレメドヴ、日高

記録：日高

[審議事項]

1. 教科書選定のスケジュールについて

- 12月上旬に持ちコマを案内し、専任・非常勤に推奨テキストリストへの推薦を挙げてもらい、年末から年明けで、原先生を中心に集約していただく。
- 推奨テキストのリストは1月末に完成を予定しており、2月FD前までには、教員会議室と非常勤講師室にサンプルテキストを配架する。また、これに伴い、注文用紙を配布する。
- 洋書は時間がかかるため、できるだけ早めに注文してもらう。
- 選定について
  - ① 前回の採用リストを参照し、10冊程度、内容が古いものなどを入れ替える。
  - ② 英語ⅡBとⅢのリストに重複があるようなので、今回は重複を避けて選定する。
  - ③ 出版社から送られてきた新刊は、教員会議室に配架しておく。

2. 非常勤講師の新規採用について

- 12月分科会へ向けて審議するが、日本語履歴書を作成する必要がある。

3. その他

[報告]

1. LOL ラウンジについて

- 学生を増やすために、各クラスで宣伝をしてほしい。
- 出席した学生を対象にアンケートを取るなどして、運営に役立てる。

●カレンダーなどを作成して、ホームページに載せてもらうなど、広報活動を積極的に行ってもらいたい。

## 2. 2月13日の英語FDについて

- 伊集院さんから上智大学へ、講師 池田先生の招聘依頼中である。
- 池田先生はFD前日に鹿児島着予定である。ワークショップ前に事前打ち合わせが必要か、先方に問い合わせて決定する。
- セッション中に教員のヘルプが必要か、準備すべきもの（ネームタグなど）があるかなども、事前に確認しておく。また、必要に応じて役割分担を決める。
- FDの開始時間を10:30として、当初の予定から終了時間を遅らせ、その後の英語IVの打ち合わせとの間の休憩時間を減らす。

## 3. 補習教育について

- 補習教育を受けた学生への配慮を担当の先生方をお願いする。
- 気になる学生に関する所見を、後期の成績を提出するころまでに回答してもらう。

## 4. GTECについて

- 資料を参考に日程と場所の確認をしておく。

次回の既修語系ミーティング予定：12月21日13:00～（第三週）

○平成29（2017）年度 既修語系ミーティング（通称、English Meeting）第8回合  
議事録

平成30（2018）年01月18日（木）13:00～15:00 於：共通教育センター教員会議室  
出席者：ネバラ、高橋、金岡、原、村山、ブレイジア、ハムチュック、ギュレメトヴ、  
日高、藏本（10名）

記録：藏本

### [審議事項]

#### 1. 平成30（2018）年度の推奨テキストリストについて

##### ■推奨テキストリストの変更点

- ・英語 IIB no.6 Speaking of Speech Level 2 / no.7 Presentations in English  
→削除：英語 III のリストに既に含まれており、重なる為、削除する。
- ・英語 IIB no.33 Academic Presentation  
→削除：英語 III のリストへ移動
- ・英語 IV no.21 My Home、 My English Roots 1  
→削除：科目内容に合わないため

※移動、削除後の冊数について

英語 IA・IIA：49 冊 / 英語 IB・IIB: 41 冊 / 英語 III：19 冊 / 英語 IV:28 冊

■リストの名称変更について（下線部が変更箇所）

・英語 III（Speaking/ Presentation Project-Based Learning Focused on Department/Major）

・英語 IV (Academic Reading)

※その他、変更等は今月中に原先生まで連絡する。

2. 平成 30（2018）年度の既修語系体制（役割分担）について

■平成 30（2018）年度既修語系ミーティングは、毎回教育議題を取り上げて、話し合う時間を設ける。

■新設した役割について

- ・教育（カリキュラム等）
- ・補習教育と障害者支援
- ・EMI/CLIL：FD 会として他学部の先生方を呼ぶ。

（英語教育活動報告書作成：教育、FD、カリキュラムなどについて作成する。）

■会議記録係について

- ・審議事項のみで、報告部分は省略する。1 ページ以内にまとめる。

3. 平成 30（2018）年度の外国語教育部門の仕事内容について

■全員で共通教育の教育・カリキュラムに関する学習効果、問題点と改善について考える。

4. 平成 30（2018）年度の FD 会について

■3 月末までに計画を提出する。4 月に予算申請の書類作成をする。

■平成 30（2018）年度 第 1 回目：Manaba を使った CLIL self-teaching 講座について（案）

第 2 回目：講演会またはワークショップ（検討中）

■実施時期については、内容に応じて、受講対象者が受講しやすい時期を考慮して検討する。

状況に応じて、8 月上旬、9 月末、2 月中旬の実施で検討する。

5. GTEC について

■GTEC Academic へ名称が変更した。

■医学部に 4 技能受験を提案する。

■予備日は例年通り、前期・後期 2 回ずつ行う。

6. その他

[報告]

1. 平成 30（2018）年度のコマ調整について

■全員 12 コマで調整した。10 月に新規採用 2 名がある場合、後期のコマ数に変更される

可能性がある。

2. LOL ラウンジについて

- 英語セッションについてアンケートを実施し、集計をしている段階である。次年度の実施時間を検討する。
- 各言語の実施曜日は調整中である。

3. 2月13日の英語FD会について

→係決めを行った。

4. 2月13日の英語IV意見交換会について

- 2月13日15:00-15:30（ワークショップ後）に実施する。英語IV担当者に、事前アンケートを実施する。

5. TOEICの結果について

- 工学、法学部、医学部は定期的に受験している。

6. その他

- 他の国立大学のLMSの使い方
- 分科会がなくなり、議題等を部門会で審議・決定する可能性がある。（案）
- 樋口先生の最終講義が3月3日（土）15:30-17:00 教育学部第一講義棟103号室で行われる。
- 大学院の授業担当者は、前期のみ授業が実施される。後期の受講生が少ないため。

次回の既修語系ミーティング予定：未定（3月8日(木)13:00～）

以上

**B. 平成30（2018）年度（4月～11月）における英語教育に係る諸検討**

平成28年度の共通教育英語の新カリキュラムが施行され、教員各々が本学における英語教育の改善に取り組んできた。本学学生を共通教育から専攻分野へと橋渡しできるよう、学生の現状とニーズを把握し、現行カリキュラムが学生に適したものであるか、常に確認しつつ、進化させることを目指している。平成30年度の英語ミーティングで審議された、新カリキュラム施行後の状況、改善点、提案等について報告する。

**■英語IA・英語IIAのカリキュラムについて**

学習目標の項目を見直し、学生の現状、学部の特性に対応した学習目標を設定する必要がある。

- ・Note-taking に関しては学生が英語で授業を受けていない場合もあり、現実的ではないのではないか。
- ・上級生は listening が苦手とする学生が多いため listening に関する学習目標を再検討す



る必要がある。

- ・多読を追加する必要がある（例：Graded reader、XreadingVL 等）。

#### ■英語 IB のカリキュラムについて

- ・シラバスの教育目的と推奨テキストの内容を一致させる。
- ・Writing の学習目標、授業計画に essay writing を含める。
  - 現行のシラバスでは paragraph writing のみ触れられている。
  - クラスのレベルに応じて essay writing も指導したらどうか。
- ・Paragraph writing の内容を言及する。
  - 学生がどのような内容を書けるように指導するのか、どのような目的を持って書くのか明確にする。
- ・Writing accuracy/ fluency について含める。
  - 現行のシラバスでは paragraph の書き方、つまり writing の知識について書かれている。
- ・email の書き方の指導も必要ではないか。

#### その他

- ・Writing のテキストを作成したらどうか。レベルに応じた multi-level booklet の作成をしたらどうか。
  - 新カリキュラムの準備が落ち着いてから、考察する。

#### 今後の課題

- ・英語 IB でどのような内容の paragraph を学生に取り組んでももらいたいのか明確にする。
- ・英語 IB と英語 IIB が上手く連動するようにシラバスを工夫するべきか。

#### ■英語 IIB のカリキュラムについて

- ・英語 IIB の目的とシラバス、推奨テキストに矛盾がある。
  - シラバスでは writing skills が含まれているが、推奨テキストは speaking/presentation skills しか対応していない。
  - 英語 IB、IIB の目的を見直す必要がある。
- ・現行の英語 IIB シラバスは、presentation だけに留まらず、あらゆる言語コミュニケーション場面に通じる skills を目的としている。
  - レベルに応じて、様々なアプローチをとっても良いのではないか。必ずしも presentation でなくても良いのではないか。
- ・学生が英語で何を表現できるようになってもらいたいのか、より明確にしないといけない。
  - Conversation、discussions、speech & presentation、debates のような具体的な項目をも加えてもいいのではないか。
  - 学生が実際に必要にしている能力は何なのか、考える必要がある。
- ・研究によると 70 % の学生が将来的に、職場で presentation skills を求められると言わ

れている。具体的にどのような場面に対応できる力が必要なのか、調査する必要がある。

#### 今後の課題

- ・英語 IB と英語 IIB は連動するようにした方が良いのではないかな。  
→通年、同じ担当者にする。
- ・英語 IB と英語 IIB が連動（構成力、論理的展開能力を継続的に育成するため）するように、シラバスに工夫できるか、あるいは工夫するべきではないかな。

#### その他（英語 IIB への気づき、指導方法等）

- ・1年次に presentation を教えるのは、早いのではないかな。3、4年次で教える方がふさわしいのではないかな。
- ・学生が本当に必要とする skills（例：意見の述べ方、税関で使う英語表現等）を教えた方がより実用的ではないかな。
- ・レベルに応じて、output skills の内容を変えてもよいのではないかな。学生のレベルに応じて、カリキュラムに柔軟性を持たせる  
→レベルの高いクラス：presentation skills、group discussions  
→レベルの低いクラス：意見の述べ方、自分自身のことを話す
- ・Presentation は原稿の暗記に過ぎず、学生は話す流れまたは順序について考えながら話すことをしていない。
- ・理学部、工学部は最低限度の presentation skills が必要。
- ・将来的に、国際会議、学会等で、質疑応答ができる力が必要。
- ・Presentation を行う際、質問をする学生には点数を付けてあげるようにしている。
- ・email を作成する力も必要でないかな。（Career email writing）
- ・学生自身に取り組みたい内容について問い、決めてもらうという研究がある。

#### ■英語 IA・IIA・IB・IIB の授業外学習の指導改善について

授業外学習の指導改善が必要であり、学生に授業外の学習が大切だと認識させる必要がある。各授業、単位基準に応じた授業外学習時間が定められているため、授業外学習も含めて指導する必要がある。

- ・Speaking と Reading skills に自信がないというが、授業外で学生自ら努力をしているのだろうか。15回の授業内でできることは限られていることを学生に認識してもらう必要がある。
- ・エッセイと多読の宿題を増やす。（例：1日5分之多読指導、Reading Explorer シリーズを使用した project、Quizlet や Manaba を利用した小テスト、多読用のサブテキストを購入してもらう、Graded reader、XreadingVL の導入を検討する。
- ・一方で、教員の負担を考え、課題の出し方、添削の方法を工夫する必要性がある。
- ・授業外学習の評価を 40%にする。
- ・シラバスにおいて、1単位につき、90分授業（実際2時間として計算）×15回、授業外学習（予習・復習）90分×15回としている。必ず、授業外学習を90分以上確保できるように工夫する必要がある。

- ・履修案内とシラバスの内容と一致させる必要がある。平成 30 年度共通教育履修案内において、予習・復習が 1 時間と記載されてある (p.6)。履修案内に修正を入れる必要がある。

### ■英語 III について

#### シラバス：

英語 III (ESAP) をシラバスから考えると、PBL などが行われている CLIL のような授業になっているはずだが。

- ・「学習目標」は基礎レベルのスキルについて細かすぎて、新しいスキル (E S A P のスキル) についてあまり書かれていない。
- ・自律学修を促しているが、具体的なガイダンスが書かれていない。
- ・16 回分のモデル授業計画が現実的ではない。
- ・成績評価基準 (例えば、スピーキング・テスト) のモデル基準をもう一度考えるべきだろう。
- ・H (初級) や H 3 (初級の基礎) のクラスにはシラバス通りにやるのは難しい。
- ・学習目標の“Project-Based Learning”の表記について今後検討する。レベルに応じた、目標設定をする必要があるため。

#### 教科書：

- ・推奨テキストリストに載っている教科書はスピーキング・プレゼンテーションのものが多い。
- ・市販の PBL の教科書がない。PBL なら、我々で教材を作成するべきだろうか
- ・2 月または 3 月の英語教育 FD では PBL やディベートなどについてみんなで考える価値があるのではないか？

#### エビデンス：

- ・データ (GTEC の結果、IR と CEFR-J のアンケート結果など) が足りない、または関係ない。

### ■英語 IV について

#### シラバス：

英語 IV (ESAPII) をシラバスから考えると、研究を含めた ESP を中心にした CLIL のような授業になっているはずだが。

- ・「学習目標」が曖昧で、分かりにくい。
- ・学習目標の中の「大学生力」という目標だけが分かりやすく、これを本当の目標に使うべきなのではないか？
- ・学生にとって英語で科学論文などを読む力がまだなく、英語 I V には科学の語彙力とジャンルの特徴を先ず基礎から学ぶべきだろう (その後、3、4 年に学部で論文を読む力を身に付けてもらう)。

#### 教科書：

- ・クラス・サイズが大きく（45 人程）、リーディング以外のことをするのは難しい。

#### エビデンス：

- ・データ（GTEC の結果、IR と CEFR-J のアンケート結果など）が足りない、または関係ない。

#### ■その他（英語 IA・IIA・IB・IIB・III・IV について）

- ・レベル別（上級 v、中級 p、初級 h）にクラス分けをしているが、学部ごとに英語力が異なる為、統一したレベルでまとめることは難しい。
- ・h クラスの学生にとって、文構造の捉え方、品詞の区別が難しいようである。
- ・レベル別に目標を設定し、学期最後に学生自身で振り返りができようにしてはどうか。CEFR-J の基準では、各項目の「できる、できない」の捉え方が生徒と教員間で異なる。
- ・学生に英語ができると、自信をつけさせることが大切である。目標設定を明確にし、最終目標（到達点）を設定してあげることで、自信を持たせることが大切である。  
→GTEC を利用しているため、GTEC の目標に合わせて授業構成を考えることで、目標を明確化できる。しかし、GTEC の為の授業になってしまう。
- ・教師間で授業のアイディアを紹介し合い、情報交換をする。

#### ■教科書リストについて

- ・サブテキストはリスト外の他の書籍を使用して良い。
- ・多読を導入し、Graded Reader はサブテキストとして扱う。Extensive reading を工夫しながら導入する。

#### ■大学 IR コンソーシアムアンケート 2016 調査報告書について

- ・調査に信憑性があるのだろうか。
- ・学生の自己評価による結果に信憑性があると言えるだろうか。  
→1 年生と上級生において「外国語の運用能力」について、「増えた」と回答した学生は少なく、1 年生に関しては「異文化の人々に対する知識理解」と「プレゼンテーションの能力」が増えたと回答する者の割合が多い傾向を示している。しかし、学生の自己判断できちんと測定できているのだろうか。  
→日本の文化背景にある「謙遜」による影響はないだろうか。
- ・結果の解釈が難しい。  
→本学生の入学時は「聞く力」と「表現力」は他大学と比べて高い得点ではあるが、上級生になるとこの項目に関して熟達度は低くなる。一方で「読む力」には自信があるようだ。

#### ■IR survey results

- ・学生の 50%が「文章表現力」が改善されたと回答しているが、英語、日本語のどちらの「文章表現力」なのか言及されていないため、英語教育との関連性が不明瞭である。

- English writing skills について、最も多くの学生（1 年生 38.3%）が入学時のレベルを B1(身近で個人的に関心のある話題を書くことができる。個人的な手紙で経験や印象を書くことができる)と回答していた。その後、44.1%に上がった。しかし、上級生で B1 と回答した学生は 36.9%だった。
- 入学時の speaking skills は、最も習得されていない技能という結果が出ている。1 年次は 4 技能が伸びており、3・4 年次には低下している。1 年次には speaking skills が飛躍的に伸びているという結果が出ている。

#### ■CEFR-J の結果について

学習目標を明確化し、シラバスに柔軟性をもたせたらいいのではないかな。

- 各学科における共通教育英語の学習目標を明確にしたらどうか。
- シラバスには基本事項を記載し、教員が柔軟に対応できるようにしたらどうか。
- 新しいアイデアや教授法を試すことができるようにシラバスに柔軟性を持たせ、より良いものに進化させたらどうか。
- 学生が paragraph、 essay writing 能力が低いと回答している。
- Speaking skills について、「あまり自信がない」と回答されている。また、会話力も低いという結果が出ている。

#### ■GTEC について

- 共通教育に対応した検定試験が必要ではないかな。
- GTEC は共通教育の英語授業に対応した検定試験か再検討が必要ではないだろうか。  
→GTEC はビジネス英語に関連した skill を測っているが、共通教育の授業では academic skills を目指し授業を行っている。
- 学生が実際必要としている skill に対応した、英語教育を目指すべきではないだろうか。  
(例) “Career English”、 communicative skills、 speaking skills
- 現在、Reading と Listening skill しか測っていないため、カリキュラムの内容と一致していないが、今後、4 skills を測る GTEC へ移行した場合、カリキュラムに反映できる判断材料が出てくるのではないかな。
- (Listening / Reading section のみの GTEC の場合) 現カリキュラムには対応していないため、4 技能試験に移行してから、検討事項が見えてくると思われる。

審議の結果、修正された新シラバスは 31 年度から使用される予定とした。また、シラバスの共通項目は操作できないように Excel 表のセルをロックする、非常勤講師にも周知徹底するなど対策を講じ、編集しないようにする。授業計画書、テキスト選択はテンプレートや推奨リストを参考に担当教員の裁量で決める。授業時間外学習時間は 90 分を目標とし、シラバスに記載する。

以上

## Ⅱ. 平成 29 (2017) 年前期～平成 30 (2018) 年度前期の大学向け GTEC 実施について

### A. 実施状況

#### A-1. 大学向け GTEC の実施概要

本学では平成 28 (2016) 年度から各学期の第 10 週前後に、英語外部試験として大学向け GTEC を実施している。これはパソコンを利用したオンラインテストで、受験者のリスニングとリーディングの 2 つの技能が多面的に測定される。各学期の試験結果は、受験者が当該学期に履修する共通教育英語科目で、成績評価の 20% として反映される。

平成 30 (2018) 年度から、試験の実施についていくつか変更があった。まず、成績評価について、これまではリーディング 250 点満点、リスニング 250 点満点、合計 500 点満点という GTEC スコアをそのまま 20% 換算して評価していた。しかし最高点 500 点は CEFR C2 レベルであり (資料 1)、20% 換算すると受験者の平均点が 10 点に満たず、前回の報告書でも指摘されていたように課題となっていた。そこで、リーディング 200 点満点、リスニング 200 点満点、合計 400 点満点として計算することにした。400 点までで CEFR B2 レベルをカバーしており、本学共通教育英語科目で目指す目標とも一致するものとなった。

#### 資料 1 大学向け GTEC と CEFR の対応表

CEFR	Listening+ Reading	Listening	Reading
C2	460	240	220
C1	400	200	200
B2	330	180	150
B1	270	140	130
A2	190	100	90

また、平成 30 (2018) 年前期から試験名称が変更された。それまでは GTEC CTE (Global Test of English Communication College Test Edition) と呼ばれていたが、現在は GTEC Academic となっている。それに併せて試験実施方法にも変更があり、従来の各受験者が CD-ROM を使って実施する方法から、各パソコンに予めインストールしてあるファイルを使って実施する方法となった。平成 29 (2017) 年度前期から平成 30 (2018) 年度前期までの試験は、資料 2 に示した日程で実施した。

**資料 2 大学向け GTEC の実施概要（平成 29（2017）年度前期～平成 30（2018）年度前期）**

	平成 29（2017）年度		平成 30（2018）年度
学期	前期	後期	前期
実施期間	6 月 14 日（水）～ 7 月 19 日（水）	12 月 11 日（月）～ 1 月 11 日（木）	6 月 13 日（水）～ 7 月 13 日（金）
受験対象者	1・2 年次開講の共通 教育英語科目履修者	1 年次開講の共通 教育英語科目履修 者	1・2 年次開講の共通 教育英語科目履修者
実受験者数	3201 名	1751 名	3286 名

平成 29（2017）年度以降、1 年次に開講される共通教育英語科目履修者全員に加えて 2 年次前期に開講される英語 III 履修者全員も受験対象とし、これらの授業時間中に各担当教員に実施を依頼して行っている。試験実施に際し、病気などの理由で受験できなかった学生への対策として、それぞれ 2 日間の予備日も確保した。平成 29（2017）年前期から平成 30（2018）年前期まで各回の平均スコアの一覧を、資料 3 にまとめた：

**資料 3 2017 年前期・2017 年後期・2018 年前期の平均スコア一覧**

	リスニング(200点満点)			リーディング(200点満点)			リスニング+リーディング(400満点)		
	2017年前期	2017年後期	2018年前期	2017年前期	2017年後期	2018年前期	2017年前期	2017年後期	2018年前期
全学	111.7	110.6	111.4	108.7	108.6	105.1	220.5	219.2	216.5
医学部 医学科	137.2	129.9	139.2	135.0	132.9	134.4	272.2	262.7	273.6
医学部 保健学科	110.5	106.1	112.5	111.3	110.0	106.2	221.8	216.1	218.7
共同獣医学部	128.1	129.2	133.6	130.9	127.5	130.8	259.0	256.7	264.4
教育学部	108.7	108.2	109.3	104.5	104.3	101.9	213.2	212.6	211.1
工学部	107.2	107.2	105.8	105.4	106.4	100.5	212.6	213.6	206.3
歯学部	126.3	118.6	126.3	124.3	119.4	120.8	250.7	238.0	247.1
水産学部	113.5	113.0	112.6	109.9	108.8	104.8	223.3	221.8	217.5
農学部	113.3	111.0	110.5	109.1	108.3	102.9	222.3	219.3	213.4
法文学部	116.7	114.9	117.2	113.1	112.2	112.3	229.8	227.1	229.5
理学部	109.3	106.3	109.6	105.3	104.9	102.1	214.6	211.2	211.7

**A-2. 平成 29（2017）年度の成績推移**

平成 29（2017）年前期と後期ともに GTEC CTE を受験した 1688 名のデータをもとに、成績推移を確認した（資料 4）。まず、合計点の全学平均は前後期とも 220 前後で、CEFR

A2 レベルとなっている（資料 1）。また、後期では前期よりも点数がやや下降している。また、技能別に見ても、後期では Listening、Reading とともに若干低下する傾向が見られる。これらの点について、今後は有意差の検証などを行い、成績推移の要因についても確認する必要があると思われる。

#### 資料 4 平成 29（2017）年度大学向け GTEC の成績推移

	リスニング+リーディング			リスニング			リーディング		
	前期	後期	差異	前期	後期	差異	前期	後期	差異
全学	221.6	219.9	-1.7	112.4	110.8	-1.6	109.2	109.1	-0.1
医学部医学科	267.4	262.7	-4.7	132.2	129.8	-2.4	135.2	132.8	-2.4
医学部保健学科	215.1	216	0.9	107.7	106.2	-1.5	107.4	109.8	2.4
共同獣医学部	259.5	260.3	0.8	128.7	131	2.3	130.8	129.3	-1.5
教育学部	217.4	214.7	-2.7	111.2	109.1	-2.1	106.2	105.6	-0.6
工学部	214.7	214.5	-0.2	108.5	107.5	-1	106.2	107	0.8
歯学部	239.8	238	-1.8	118.1	118.6	0.5	121.6	119.4	-2.2
水産学部	224	221.6	-2.4	113.3	113.1	-0.2	110.7	108.5	-2.2
農学部	223.2	219.8	-3.4	113.9	111.3	-2.6	109.2	108.5	-0.7
法文学部	229	227.9	-1.1	116.5	115	-1.5	112.6	112.9	0.3
理学部	215.8	211.8	-4	110.1	106.4	-3.7	105.8	105.3	-0.5

#### A-3. 平成 29（2017）年度前期～平成 30（2018）年度前期の 3 期に亘る成績推移

平成 29（2017）年前期、平成 29（2017）年後期、平成 30（2018）年前期の 3 期ともに GTEC CTE を受験した 1020 名のデータをもとに、成績推移を確認した（資料 5）。全学的に見ても学部別に見ても、受検を重ねる毎に点数が下降傾向にある。特にリーディングは、3 期目の平成 30（2018）年前期での低下がやや大きい。これらの要因として、1 期と 2 期では共通教育英語科目を 2 科目履修するのに対して 3 期では 1 科目になることや、3 期で開設される共通教育英語科目の特性としてリーディングに費やす時間が限られている可能性も考えられる。



資料 5 平成 29（2017）年前期・平成 29（2017）年後期・平成 30（2018）年前期の  
平均スコア比較

所属学部名	リスニング(200点満点)			リーディング(200点満点)			リスニング+リーディング(400満点)		
	2017年前期	2017年後期	2018年前期	2017年前期	2017年後期	2018年前期	2017年前期	2017年後期	2018年前期
総計	110.6	109.0	108.1	107.0	106.9	100.4	217.6	215.9	208.5
教育学部	110.3	108.6	108.2	105.1	105.1	98.9	215.5	213.7	207.1
工学部	108.0	107.3	104.7	106.0	106.4	98.4	214.0	213.7	203.2
水産学部	113.5	113.9	114.4	111.3	108.7	106.0	224.8	222.7	220.4
農学部	113.8	111.2	110.4	109.0	108.9	101.4	222.8	220.2	211.8
理学部	110.5	106.8	108.4	105.6	105.8	100.9	216.2	212.6	209.2

#### A-4. 大学向け GTEC に係る今後の課題

これまでは GTEC を滞りなく実施することで精一杯だったところがあるが、前回の報告書でも指摘のとおり、今後は成績の変動に有意差があるか、その要因は何かなど、データを深く検証していく必要がある。幸い平成 30（2018）年度から株式会社グローバルキャスト G-TELP 日本事務局の協力を得ることができ、作業を開始している。受検を重ねる毎にデータも蓄積されており、それらをうまく活用したい。その基礎として、GTEC から毎回の受検毎に基礎統計資料を作成頂いているが、GTEC 側で担当者が頻繁に変わることもあってか内容が統一されておらず、同じ項目を同じ形で比較する、ということが容易ではない状況にある。この点については改善を望みたい。

GTEC の受検がスコアの確認だけで終わるのではなく、学生にとっては次の学習への指針となり、教員にとっても次の指導のヒントとしてうまく活用していけるよう整えたい。

### B. 平成 29（2017）年度英語アチーブメントテスト表彰制度とその運用状況について

#### B-1. 鹿児島大学教育センター英語アチーブメントテスト表彰制度

以下は「鹿児島大学平成 28（2016）年度共通教育英語教育活動報告書」から抜粋したものである。

本学では、平成 22（2010）年度より教育センター\*が実施する共通教育課目のうち外国語科目における、学生の英語力判定のための共通実力テスト（以下「英語アチーブメントテスト」という）において、優秀な成績を収めた学生に対する表彰制度を設けている。

その目的は、学生の英語学習動機を高め、より高い英語力を目指そうとする向学心を涵養するための契機として、鹿児島大学における英語教育の質の向上に資するものとする。

表彰の対象は、第 1 年次後期に実施する英語アチーブメントテストにおいて、優秀な成績を収め、次の各号に該当する学生（以下「受賞者」という）に対し、教育センター長が表彰を行う。（1）各学部の成績最上位者 1 名に対し、優秀賞を授与する。（2）前期得点と比較して後期得点の向上が顕著と認められる者で、各学部上位者 2 名に対し、努力賞を授与する。優秀賞及び努力賞は、同一の者に対して授与することができる。

\*「鹿児島大学教育センター」という名称は、平成 29（2017）年度より「鹿児島大学共通教育センター」と改称。

## **B-2. 平成 29（2017）年度の英語アチーブメントテストに係る表彰実施体制**

平成 29（2017）年度の GTEC CTE は前期に英語 I と英語 III を受けている学生全員（原則）を対象に、また後期に英語 II を受けている学生全員（原則）を対象に実施した。英語 III を受けている学生は 2 年生以上なので、表彰対象外となる。

表彰候補者の選出は平成 30（2018）年 1 月下旬と 2 月上旬に行われた後、表彰式は同年 2 月 13 日に開いた。結果として、1 年生約 2,000 名の中から、優秀賞 9 名と努力賞 19 名となった。

## **B-3. 平成 29（2017）年度英語アチーブメントテスト表彰受賞者回答のアンケートまとめについて**

表彰対象の学生 28 名全員にアンケートを依頼し、回答を 23 名から得た。アンケート質問項目は以下の通りである。

- 1) 入学前と入学後を比べながら、あなたの英語学習のコツや工夫を教えてください。
- 2) GTEC CTE の優秀賞、努力賞を受賞することになった感想をお聞かせください。

平成 28（2016）年度のアンケート結果と同様、優秀賞受賞者と努力賞受賞者とも英語に対するモチベーションが高く、英語の勉強などに集中して、継続的に取り組んでいることが分かる。（鹿児島大学平成 28（2016）年度共通教育英語教育活動報告書参照）。正に「継続は力なり」ということであろう。

しかし、取り組み方は学生それぞれだと言える。例えば、趣味のように英語を楽しんでいる学生（音楽鑑賞をしたり、ゲームを英語に言語設定にしたり、映画や動画を英語で観たりする学生）がいる一方、歴とした勉強に励んでいる学生もいる（例えば、リスニングやリーディングの問題を解いたり、TOEFL の単語に集中して英語を習ったりする学生）。少数の回答であるが、単に英語の授業を真面目に参加しているだけ、と答えた学生もいる。例えば、努力賞を受けた学生の回答として、「英語の授業で教えてもらっていることをしっかり聞いて、予習をしっかりして授業に臨むこと」が後輩へのアドバイスとなる。他の努力賞受賞者も特別な勉強をしていないと回答しているが、「授業など日常生活の中で英語を拒むことはせず、積極的に関わろうという気持ち」だけでいたと答えた。しかし、かなりの学生が入学前と入学後の英語学習に変化があったと答えた。入学前は「受験勉強」に励んでいたが、入学後は自分個人の目的、自分個人の方策に変わったと言える。

また、受賞することになった感想を述べた学生の大部分は、受賞したことに対して驚きを示しながら嬉しく感じたという純粋な気持ちで答えた。受賞したことによって、これからも英語学習に励みたいという感想が多かった。

## **B-4. 表彰制度に係る今後の課題**

英語アチーブメントテスト表彰制度とその運用状況に関する今後の課題は、現時点では

あまり見られないと思っている。しかし、表彰制度自体が学生の間ではあまり知られていないという事実があるので、制度をもっと積極的に学生相手に宣伝すれば良いという声がある。これを考慮して、英語教育プログラムの中の表彰制度の位置を再検討する時期になるかもしれない。

## C. 平成 29 (2017) 年度の学生によるアンケート結果について

### C-1. CEFR-J に基づくアンケート

グローバルスタンダードに準拠した英語力評価について、文部科学省はそれに特化した連絡協議会を設置した。グローバル対応型の学力評価・測定ツールとしてふさわしい英語の資格・検定試験が示される一方、言語使用能力を示す CEFR (ヨーロッパ言語共通参照枠) を取り上げている。ルーブリック化されたこの言語能力指標を活用し、従来の筆記・口頭試験だけでなく、多面的に英語力を測定・評価していこうとする外国語教育政策である。

この視点を念頭に、GTEC CTE による英語力評価とあわせ、日本人学習者用に準備された CEFR-J を導入している。これは CEFR で提案された 3 つの観点からみた英語運用能力 (interaction、reception、production) と大学生として求められるレベル、つまり「自立した言語使用者」(B レベル) を焦点にしており、そのためのアンケート調査である。言いかえるとこのルーブリックで提供された質問項目に回答することで、学習者が自らの英語実践・運用能力を自己診断することが可能となる。その結果をもとに GTEC CTE の試験結果(診断データ)から掬い取れない、細部に亘る英語学力(実践・運用能力)を明らかにできる。それにより、効果的、効率的な学習ストラテジーを、自発的かつ自律的に行える学習者として成長していくことが期待されている。

具体的な質問項目を以下に示す。CTEC CTE 受験終了後、同じく PC 画面上で、このアンケートに回答してもらう(約 15 分程度)。

### 資料 6 平成 29 (2017) 年度アンケート調査内容

---

このアンケート調査は、本日受験した G-TEC CTE (英語学力試験) とは別の観点からあなたの英語学力(学習実践および到達度)を測定することが目的です。

質問は

＜Part I＞(英語運用能力に関する技能別観点)(28 問)

＜Part II＞(外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠日本人学習者用：CEFR-J)(14 問)から構成されています。

この調査は継続して行い、つぎの学期でも G-TEC CTE (英語学力試験) 終了後に行います。それにより、(I) テストベースの英語学力、(II) この調査から得られた学習実践・到達度という、

2 つの側面から総合的に測定評価し、結果をフィードバックしていきます。

それにより、英語力と英語学習力の総合的なレベルを知ることができ、

あなた自身に合った英語学習方法の構築、自発的・自律的な英語学習習慣の確立、そして学習動機づけの安定化に向けた重要な参考データとなります。

(注意とお願い)

1. 質問数が多いため、面倒くさらず、まじめに最後まで回答してください。
2. 深く悩んだり、考えたりする必要はありません。第一印象をもとに、手際よく回答して行って下さい。

■ 1 問=30 秒以内を目安にしてください。 21 分以内に終わる形で進めてください。

3. 質問がある場合、担当教員に連絡してください。

では始めてください。

#### 基本設問情報

設問 1 入学年度を選択してください。

--選択してください。 --□

設問 2 学部/学科/学籍番号を入力してください。(100 文字以内)

設問 3 氏名を入力してください。(20 文字以内)

#### <Part I> (英語運用能力に関する技能別観点) (28 問)

[ 回答で使う 6 つのスケール ] ※番号を 1 つ選んでください。

- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| 1 = まったくできない     | 4 = どちらかといえばできる |
| 2 = ほとんどできない     | 5 = ほとんどできる     |
| 3 = どちらかといえばできない | 6 = じゅうぶんできる    |

**【A】英語によるライティングに関して**

1. 伝えたい内容をより具体的にし、発信情報をわかりやすくしながら書く  
1----2----3----4----5----6
2. 内容全体を論理的な構成に整えて書く  
1----2----3----4----5----6
3. 英文と英文のつながりが、論理的にスムーズにつながるように書く  
1----2----3----4----5----6
4. 一つの英文（文構造）に正しい文法や語法を使って書く  
1----2----3----4----5----6
5. 正しく単語を綴りながら（＝正しいスペリング）で書く  
1----2----3----4----5----6
6. 文や文章を見ながら正しく、または適切に句読点（、－：；）を入れて書く  
1----2----3----4----5----6
7. 書き上げた英文内容をもとにキーワード化し、それを用いた視覚情報媒体  
（内容を図示したもの、パワーポイントでの作図、OHP用スライドなど）を作成する  
1----2----3----4----5----6

**【B】英語のリスニングに関して**

1. 聞き取れた（理解できた）意思表示（うなずき、発話、ジェスチャー）を入れていく  
1----2----3----4----5----6
2. 聞き取れない（理解できない）時に、繰り返してほしいリクエストを英語で言う  
1----2----3----4----5----6
3. 聞き取れている（理解できている）かどうか確認したいので、それを英語で伝える  
1----2----3----4----5----6
4. 聞き取れて理解している時、その内容について英語で質問をする  
1----2----3----4----5----6
5. 聞き取れて理解している時、その内容について英語で自分の考えを述べる  
1----2----3----4----5----6
6. 聞き取れて理解している時、その内容について英語で助言や提案をする  
1----2----3----4----5----6

**【C】英語の音読に関して ※黙読は除外してください**

1. 辞書から発音記号・アクセントを調べ、正しく発音する  
1----2----3----4----5----6
2. 英文の意味や文構造から考えて、適切に区切りながら読んでいく  
1----2----3----4----5----6

3. つまったりせず、wpm（1分単位の音読スピード）を意識してスムーズに読んでいく

1----2----3----4----5----6

4. リエゾン（発音記号の連結）ルールを見つけ、連結発音を入れながら読んでいく

1----2----3----4----5----6

5. 気持ちや感情を示すため、単語や英文に意識的に音声変化をつけて読んでいく

1----2----3----4----5----6

#### 【D】英語による発話や表現に関して

1. アイコンタクトを入れながら発話する

1----2----3----4----5----6

2. 顔の表情を入れながら発話する

1----2----3----4----5----6

3. 指や手の動きを入れながら発話する

1----2----3----4----5----6

4. 内容や気持ちを表すために、体の動きも使って発話する

1----2----3----4----5----6

5. 性別、年齢、出身地や出身高校を英語で言う

1----2----3----4----5----6

6. 大学に関する所属や専攻（大学名、学部、学科、学年）を英語で言う

1----2----3----4----5----6

7. 何を専門的に学んでいきたいか、研究テーマと理由を英語で言う

1----2----3----4----5----6

8. 卒業後はどのような進路を計画しているか、理由を含めて英語で言う

1----2----3----4----5----6

9. 具体的にめざすべき大学生像と、その理由や目的を英語で言う

1----2----3----4----5----6

10. どのような価値観や信念をもっているか（またはもつべきか）、英語で言う

1----2----3----4----5----6

#### <Part II>（外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠日本人学習者用：CEFR-J）（14問）

※ 質問番号の後のカッコ内の記号と番号は無視してください（内容と関係ありません）。

#### 【A】書くこと（英語）

- 1.(B1.1) 自分に直接関わりのある環境（学校、職場、地域など）での出来事を、身近な状況で使われる語彙・文法をもちいて、まとまりのある書き方で描写することができる

1----2----3----4----5----6

2. (B1.2) 物事の順序に従って、旅行記や自分史、身近なエピソードなどの物語文を、いくつかの段落で書くことができる。 1----2----3----4----5----6

3. (B2.1) そのトピックについて何か自分が知っていれば、自分の考えを示しつつ、ある程度の結束性のあるエッセイやレポートを、幅広い語彙をある程度使って、書くことができる 1----2----3----4----5----6

4. (B2.2) 自分の専門分野や関心のある事柄であれば、複雑な内容を含む報告書や論文などを、その原因や結果も考えて、詳細な文章で書くことができる 1----2----3----4----5----6

### 【B-(1)】 聞くこと (英語)

1. (B1.2) 自然な速さの録音や放送(天気予報や空港のアナウンスなど)を聞いて、自分に  
関心のある、具体的な情報の大部分を聞き取ることができる 1----2----3----4----5----6

2. (B2.1) トピックが身近であれば、長い話や複雑な議論の流れを理解することができる 1----2----3----4----5----6

### 【B-(2)】 やりとり (英語)

1. (B1.1) 身近なトピック(学校・趣味・将来の希望)について、簡単な英語を幅広く使って意見を表明し、情報を交換することができる 1----2----3----4----5----6

2. (B1.1) 個人的に関心のある具体的なトピックについて、簡単な英語を用いて、社交的な会話を続けることができる 1----2----3----4----5----6

3. (B2.1) ある程度なじみのあるトピックならば、新聞・インターネットで読んだり、テレビで見たニュースの要点について議論することができる 1----2----3----4----5----6

4. (B2.1) 自分が学んだトピックや自分の興味や経験の範囲内のトピックなら、抽象的なトピックであっても、議論できる 1----2----3----4----5----6

### 【C】 読むこと (英語)

1. (B1.2) インターネットや参考図書などを調べて、学業や仕事に関係ある情報を手に入れることができる。必要であれば時に辞書を用いて、図表と関連づけながら理解することができる 1----2----3----4----5----6

2. (B2.2) 自分の専門分野の論文や資料から、辞書を使わずに、必要な情報や論点を読み取ることができる 1----2----3----4----5----6

### 【D】 発表 (英語)

1. (B1.1) 使える語句や表現をつないで、自分の経験や夢、希望を順序立て、話しを広げながら、ある程度詳しく語ることができる 1----2----3----4----5----6

2. (B1.1) 自分の考えを事前に準備して、メモの助けがあれば、馴染みのあるトピックや自分に関心のある事柄について語ることができる 1----2----3----4----5----6

## C-2. 平成 29 (2017) 年度のアンケート結果とまとめ

平成 29 (2017) 年度に実施された 2 回のアンケート結果（前期、後期—1 年生対象）を以下にまとめて示す（基本データ：1648 名からの回答比率）。

資料 7 平成 29 (2017) 年度アンケート回答者数

学部	前期計	後期計
医学部	91	91
共同獣医学部	29	29
教育学部	216	216
工学部	436	436
歯学部	8	8
水産学部	146	146
農学部	203	203
法文学部	344	344
理学部	175	175
全学	1648	1648

### <Part I>（英語運用能力に関する技能別観点）（28 問）

- [A] 英語によるライティングに関して
- [B] 英語のリスニングに関して
- [C] 英語の音読に関して ※黙読は除外してください
- [D] 英語による発話や表現に関して

### <Part II>（外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠日本人学習者用：(CEFR-J)（14 問）

質問番号の後のカッコ内の記号と番号は無視してください（内容と関係ありません）。

- [A] 書くこと（英語）
- [B-(2)] やりとり（英語）
- [C] 読むこと（英語）
- [D] 発表（英語）



資料 8 平成 28（2016）年度アンケート結果

1. 伝えたい内容をより具体的にし、発信情報をわかりやすくしながら書く												
学部	じゅうぶん できる		ほとんど できる		どちらかといえ ばできる		どちらかといえ ばできない		ほとんど できない		まったく できない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	0.0%	0.0%	5.5%	2.2%	40.7%	48.4%	31.9%	30.8%	18.7%	16.5%	3.3%	2.2%
共同獣医学部	0.0%	0.0%	6.9%	0.0%	37.9%	44.8%	34.5%	41.4%	13.8%	10.3%	6.9%	3.4%
教育学部	0.9%	0.0%	6.0%	5.1%	30.6%	37.0%	37.5%	35.6%	20.8%	17.1%	4.2%	5.1%
工学部	1.6%	0.7%	3.4%	2.8%	33.0%	31.4%	37.8%	43.1%	19.5%	18.3%	4.6%	3.7%
歯学部	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	25.0%	37.5%	12.5%	12.5%	12.5%	0.0%
水産学部	0.7%	0.7%	6.8%	4.8%	29.5%	26.7%	34.9%	41.8%	21.9%	21.2%	6.2%	4.8%
農学部	0.5%	1.0%	4.4%	1.5%	33.5%	37.4%	35.0%	38.4%	21.2%	18.7%	5.4%	3.0%
法文学部	0.9%	0.0%	4.4%	3.8%	34.3%	43.3%	43.3%	40.4%	15.1%	11.0%	2.0%	1.5%
理学部	0.6%	1.1%	5.7%	3.4%	31.4%	32.6%	41.7%	38.3%	16.0%	22.9%	4.6%	1.7%
全学	0.9%	0.5%	4.8%	3.3%	33.1%	36.3%	38.3%	39.6%	18.6%	17.2%	4.2%	3.1%

2. 内容全体を論理的な構成に整えて書く												
学部	じゅうぶん できる		ほとんど できる		どちらかといえ ばできる		どちらかといえ ばできない		ほとんど できない		まったく できない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	1.1%	0.0%	6.6%	5.5%	38.5%	45.1%	29.7%	31.9%	19.8%	16.5%	4.4%	1.1%
共同獣医学部	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%	41.4%	37.9%	37.9%	41.4%	10.3%	17.2%	6.9%	3.4%
教育学部	0.9%	0.0%	3.2%	2.3%	27.8%	31.9%	43.5%	41.7%	19.4%	18.1%	5.1%	6.0%
工学部	1.4%	0.2%	3.7%	4.4%	30.3%	31.0%	41.1%	37.4%	18.8%	22.2%	4.8%	4.8%
歯学部	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	37.5%	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%
水産学部	2.7%	2.1%	3.4%	4.8%	28.8%	23.3%	30.1%	36.3%	29.5%	26.7%	5.5%	6.8%
農学部	0.5%	1.0%	4.4%	3.0%	34.0%	33.0%	35.5%	39.9%	20.2%	18.7%	5.4%	4.4%
法文学部	0.3%	0.0%	4.9%	6.1%	38.7%	40.7%	36.9%	36.3%	16.9%	15.1%	2.3%	1.7%
理学部	0.6%	0.6%	6.3%	2.9%	34.9%	39.4%	34.3%	33.7%	16.0%	20.0%	8.0%	3.4%
全学	1.0%	0.4%	4.3%	4.1%	33.2%	34.6%	37.5%	37.4%	19.1%	19.4%	4.9%	4.1%

3. 英文と英文のつながりが、論理的にスムーズにつながるように書く												
学部	じゅうぶん できる		ほとんど できる		どちらかといえ ばできる		どちらかといえ ばできない		ほとんど できない		まったく できない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	1.1%	0.0%	5.5%	5.5%	46.2%	44.0%	28.6%	35.2%	13.2%	13.2%	5.5%	2.2%
共同獣医学部	3.4%	0.0%	6.9%	6.9%	31.0%	31.0%	37.9%	44.8%	13.8%	13.8%	6.9%	3.4%
教育学部	1.4%	0.0%	6.0%	5.6%	31.0%	29.6%	39.4%	40.3%	18.1%	18.5%	4.2%	6.0%
工学部	1.1%	0.7%	7.8%	5.5%	32.3%	35.1%	34.9%	34.2%	18.6%	21.1%	5.3%	3.4%
歯学部	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	37.5%	37.5%	37.5%	50.0%	12.5%	0.0%	12.5%	0.0%
水産学部	2.7%	0.7%	8.9%	5.5%	25.3%	21.9%	32.9%	39.0%	24.7%	24.0%	5.5%	8.9%
農学部	0.5%	1.0%	3.9%	5.4%	33.0%	33.0%	39.4%	38.9%	16.3%	18.7%	6.9%	3.0%
法文学部	1.2%	0.3%	7.6%	8.7%	35.2%	42.4%	39.2%	32.8%	14.2%	14.2%	2.6%	1.5%
理学部	2.3%	1.7%	8.6%	6.3%	27.4%	35.4%	38.3%	33.7%	17.7%	18.9%	5.7%	4.0%
全学	1.4%	0.6%	7.0%	6.3%	32.5%	35.0%	36.8%	36.0%	17.4%	18.4%	4.9%	3.8%

4. 一つの英文(文構造)に正しい文法や語法を使って書く												
学部	じゅうぶん できる		ほとんど できる		どちらかといえば できる		どちらかといえば できない		ほとんど できない		まったく できない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	1.1%	1.1%	11.0%	7.7%	40.7%	48.4%	33.0%	27.5%	11.0%	15.4%	3.3%	0.0%
共同獣医学部	0.0%	0.0%	6.9%	3.4%	27.6%	55.2%	44.8%	34.5%	13.8%	3.4%	6.9%	3.4%
教育学部	1.4%	0.5%	6.5%	6.9%	37.0%	37.0%	33.3%	31.5%	19.0%	20.4%	2.8%	3.7%
工学部	1.4%	0.9%	9.2%	6.7%	38.1%	38.5%	30.7%	33.7%	16.1%	17.4%	4.6%	2.8%
歯学部	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	50.0%	50.0%	25.0%	37.5%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%
水産学部	2.1%	1.4%	6.8%	7.5%	27.4%	24.0%	38.4%	34.9%	19.9%	26.0%	5.5%	6.2%
農学部	0.5%	2.0%	8.9%	6.9%	36.5%	42.4%	39.4%	35.0%	9.9%	12.3%	4.9%	1.5%
法文学部	0.9%	1.5%	9.9%	9.0%	43.3%	45.3%	33.1%	32.6%	10.2%	10.2%	2.6%	1.5%
理学部	1.7%	1.1%	8.6%	8.6%	30.9%	39.4%	33.7%	32.0%	18.3%	17.1%	6.9%	1.7%
全学	1.2%	1.2%	8.7%	7.5%	37.1%	39.9%	34.0%	32.9%	14.6%	16.0%	4.4%	2.5%

5. 正しく単語を綴りながら(=正しいスペリング)で書く												
学部	じゅうぶん できる		ほとんど できる		どちらかといえば できる		どちらかといえば できない		ほとんど できない		まったく できない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	4.4%	5.5%	27.5%	17.6%	42.9%	52.7%	13.2%	13.2%	11.0%	11.0%	1.1%	0.0%
共同獣医学部	0.0%	0.0%	24.1%	10.3%	31.0%	51.7%	31.0%	27.6%	6.9%	3.4%	6.9%	6.9%
教育学部	5.1%	4.2%	22.7%	18.1%	42.6%	47.2%	20.8%	21.3%	7.4%	6.9%	1.4%	2.3%
工学部	5.5%	3.7%	21.6%	17.9%	39.0%	40.4%	21.3%	24.5%	9.6%	11.5%	3.0%	2.1%
歯学部	0.0%	12.5%	25.0%	50.0%	25.0%	25.0%	37.5%	12.5%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%
水産学部	5.5%	7.5%	13.0%	8.9%	36.3%	36.3%	31.5%	28.1%	11.0%	13.7%	2.7%	5.5%
農学部	5.9%	3.0%	17.2%	22.2%	46.8%	45.8%	21.2%	20.7%	7.4%	7.9%	1.5%	0.5%
法文学部	4.4%	4.7%	22.4%	22.4%	47.1%	49.1%	20.3%	18.6%	4.4%	4.7%	1.5%	0.6%
理学部	5.1%	6.3%	25.1%	22.3%	36.0%	44.0%	18.3%	18.3%	11.4%	8.0%	4.0%	1.1%
全学	5.0%	4.6%	21.4%	19.1%	41.6%	44.6%	21.4%	21.4%	8.3%	8.6%	2.4%	1.8%

6. 文や文章を見ながら正しく、または適切に句読点(、—：)を入れて書く												
学部	じゅうぶん できる		ほとんど できる		どちらかといえば できる		どちらかといえば できない		ほとんど できない		まったく できない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	1.1%	5.5%	20.9%	13.2%	41.8%	59.3%	24.2%	9.9%	11.0%	11.0%	1.1%	1.1%
共同獣医学部	3.4%	0.0%	13.8%	17.2%	31.0%	37.9%	31.0%	31.0%	13.8%	6.9%	6.9%	6.9%
教育学部	5.6%	2.3%	19.0%	13.4%	36.1%	40.7%	27.8%	31.9%	8.8%	9.7%	2.8%	1.9%
工学部	5.0%	2.8%	15.4%	14.2%	39.9%	44.7%	25.2%	23.9%	11.2%	11.5%	3.2%	3.0%
歯学部	0.0%	0.0%	25.0%	37.5%	37.5%	37.5%	25.0%	12.5%	0.0%	12.5%	12.5%	0.0%
水産学部	5.5%	3.4%	11.0%	16.4%	41.1%	30.1%	24.7%	26.0%	13.7%	17.8%	4.1%	6.2%
農学部	3.0%	2.5%	14.3%	17.7%	41.9%	42.9%	24.6%	26.6%	13.3%	8.4%	3.0%	2.0%
法文学部	5.8%	4.4%	18.0%	16.6%	45.3%	45.6%	24.7%	24.7%	4.7%	7.3%	1.5%	1.5%
理学部	8.0%	4.0%	21.7%	18.3%	35.4%	43.4%	18.9%	21.7%	12.0%	9.1%	4.0%	3.4%
全学	5.1%	3.3%	16.9%	15.8%	40.4%	43.4%	24.7%	24.7%	10.1%	10.2%	2.9%	2.7%

7. 書き上げた英文内容をもとにキーワード化し、それを用いた視覚情報媒体(内容を図示したもの、パワーポイントでの作図、OHP用スライドなど)を作成する

学部	じゅうぶん できる		ほとんど できる		どちらかといえば できる		どちらかといえば できない		ほとんど できない		まったく できない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	1.1%	3.3%	7.7%	5.5%	26.4%	35.2%	35.2%	33.0%	20.9%	18.7%	8.8%	4.4%
共同獣医学部	0.0%	0.0%	6.9%	10.3%	27.6%	48.3%	37.9%	27.6%	10.3%	10.3%	17.2%	3.4%
教育学部	1.9%	3.7%	7.9%	9.7%	19.0%	31.0%	30.1%	33.3%	27.8%	18.5%	13.4%	3.7%
工学部	3.2%	1.6%	6.2%	6.9%	22.0%	29.1%	34.2%	34.2%	22.9%	21.1%	11.5%	7.1%
歯学部	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	25.0%	25.0%	12.5%	25.0%	12.5%	0.0%
水産学部	1.4%	1.4%	6.8%	3.4%	16.4%	28.1%	26.0%	32.2%	34.2%	21.9%	15.1%	13.0%
農学部	1.0%	0.5%	4.4%	6.4%	18.2%	25.6%	31.0%	36.0%	31.0%	25.6%	14.3%	5.9%
法文学部	1.2%	1.2%	4.7%	10.2%	21.8%	34.0%	37.8%	30.8%	27.0%	20.1%	7.6%	3.8%
理学部	1.7%	3.4%	12.6%	6.9%	29.7%	33.1%	23.4%	29.1%	22.9%	23.4%	9.7%	4.0%
全学	1.8%	1.9%	6.7%	7.5%	21.9%	31.1%	32.2%	32.6%	26.0%	21.1%	11.3%	5.8%

1. 聞き取れた(理解できた)意思表示(うなずき、発話、ジェスチャー)を入れていく

学部	じゅうぶん できる		ほとんど できる		どちらかといえば できる		どちらかといえば できない		ほとんど できない		まったく できない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	0.0%	1.1%	16.5%	6.6%	50.5%	51.6%	14.3%	27.5%	14.3%	13.2%	4.4%	0.0%
共同獣医学部	6.9%	3.4%	13.8%	17.2%	31.0%	41.4%	20.7%	27.6%	24.1%	6.9%	3.4%	3.4%
教育学部	5.1%	4.2%	12.0%	13.4%	35.2%	36.6%	29.2%	28.7%	13.0%	14.4%	5.6%	2.8%
工学部	6.0%	3.0%	11.7%	12.4%	39.4%	41.1%	20.4%	23.4%	17.2%	17.7%	5.3%	2.5%
歯学部	12.5%	0.0%	0.0%	25.0%	37.5%	62.5%	25.0%	12.5%	12.5%	0.0%	12.5%	0.0%
水産学部	5.5%	4.8%	15.8%	13.0%	43.2%	35.6%	19.2%	24.7%	14.4%	18.5%	2.1%	3.4%
農学部	4.4%	3.4%	15.8%	13.3%	33.0%	45.3%	28.1%	23.2%	16.7%	12.8%	2.0%	2.0%
法文学部	3.8%	4.1%	13.7%	15.7%	36.6%	46.2%	28.5%	23.5%	14.8%	10.2%	2.6%	0.3%
理学部	9.7%	9.7%	13.7%	13.1%	32.6%	37.1%	19.4%	22.9%	16.0%	14.3%	8.6%	2.9%
全学	5.3%	4.2%	13.5%	13.3%	37.6%	41.9%	23.7%	24.4%	15.7%	14.3%	4.4%	2.0%

2. 聞き取れない(理解できない)時に、繰り返ししてほしいリクエストを英語で言う

学部	じゅうぶん できる		ほとんど できる		どちらかといえば できる		どちらかといえば できない		ほとんど できない		まったく できない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	2.2%	2.2%	17.6%	9.9%	41.8%	47.3%	18.7%	29.7%	16.5%	11.0%	3.3%	0.0%
共同獣医学部	6.9%	6.9%	13.8%	10.3%	20.7%	34.5%	37.9%	27.6%	17.2%	17.2%	3.4%	3.4%
教育学部	8.3%	3.7%	14.8%	13.9%	40.7%	41.7%	21.3%	21.8%	12.0%	16.7%	2.8%	2.3%
工学部	6.2%	4.8%	17.9%	17.2%	35.8%	41.1%	22.7%	20.4%	13.3%	12.6%	4.1%	3.9%
歯学部	0.0%	12.5%	25.0%	12.5%	12.5%	50.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%
水産学部	8.2%	6.2%	13.7%	17.1%	40.4%	31.5%	24.7%	24.7%	11.6%	15.8%	1.4%	4.8%
農学部	3.9%	4.9%	16.3%	16.3%	44.8%	41.4%	22.7%	26.1%	7.9%	7.9%	4.4%	3.4%
法文学部	5.8%	6.4%	16.3%	14.5%	39.8%	43.0%	22.7%	26.7%	13.4%	9.0%	2.0%	0.3%
理学部	10.9%	9.1%	14.9%	14.3%	33.7%	38.9%	19.4%	23.4%	16.0%	13.1%	5.1%	1.1%
全学	6.6%	5.5%	16.2%	15.2%	38.5%	40.8%	22.5%	24.0%	12.8%	12.1%	3.4%	2.4%

3. 聞き取れている(理解できている)かどうか確認したいので、それを英語で伝える												
学部	じゅうぶんできる		ほとんどできる		どちらかといえばできる		どちらかといえばできない		ほとんどできない		まったくできない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	0.0%	0.0%	6.6%	5.5%	22.0%	25.3%	42.9%	39.6%	22.0%	26.4%	6.6%	3.3%
共同獣医学部	6.9%	6.9%	0.0%	3.4%	13.8%	31.0%	44.8%	37.9%	20.7%	13.8%	13.8%	6.9%
教育学部	2.3%	1.4%	6.9%	5.6%	21.3%	18.1%	35.6%	44.0%	26.9%	22.7%	6.9%	8.3%
工学部	1.6%	1.8%	5.3%	6.2%	24.1%	26.4%	36.9%	36.7%	25.2%	22.7%	6.9%	6.2%
歯学部	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	25.0%	37.5%	25.0%	62.5%	25.0%	0.0%	12.5%	0.0%
水産学部	4.8%	4.8%	8.2%	5.5%	21.2%	21.2%	38.4%	37.7%	24.0%	21.2%	3.4%	9.6%
農学部	0.5%	1.0%	7.9%	6.9%	28.6%	27.6%	34.5%	40.9%	23.6%	19.7%	4.9%	3.9%
法文学部	2.0%	0.6%	4.4%	7.6%	25.3%	24.7%	38.4%	42.7%	23.3%	23.5%	6.7%	0.9%
理学部	3.4%	2.9%	7.4%	8.0%	28.0%	26.3%	27.4%	40.0%	24.6%	18.3%	9.1%	4.6%
全学	2.1%	1.8%	6.1%	6.5%	24.4%	24.7%	36.3%	40.2%	24.4%	21.8%	6.7%	5.0%

4. 聞き取れて理解している時、その内容について英語で質問をする口												
学部	じゅうぶんできる		ほとんどできる		どちらかといえばできる		どちらかといえばできない		ほとんどできない		まったくできない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	0.0%	0.0%	4.4%	0.0%	26.4%	29.7%	44.0%	41.8%	22.0%	22.0%	3.3%	6.6%
共同獣医学部	3.4%	0.0%	3.4%	10.3%	27.6%	34.5%	27.6%	41.4%	24.1%	6.9%	13.8%	6.9%
教育学部	2.3%	1.4%	5.1%	5.1%	30.6%	25.0%	32.9%	37.0%	19.4%	22.2%	9.7%	9.3%
工学部	1.4%	1.6%	6.9%	3.9%	24.5%	28.4%	34.2%	34.2%	24.8%	25.9%	8.3%	6.0%
歯学部	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	37.5%	50.0%	12.5%	37.5%	37.5%	0.0%	12.5%	0.0%
水産学部	3.4%	3.4%	10.3%	6.2%	21.9%	29.5%	37.0%	28.8%	20.5%	24.7%	6.8%	7.5%
農学部	1.0%	0.0%	5.4%	3.9%	25.6%	29.6%	37.4%	41.4%	24.1%	19.2%	6.4%	5.9%
法文学部	1.7%	0.0%	5.2%	4.4%	27.9%	31.4%	36.9%	37.8%	21.8%	23.5%	6.4%	2.9%
理学部	1.7%	2.3%	5.7%	6.3%	28.6%	33.1%	28.0%	30.3%	24.6%	24.0%	11.4%	4.0%
全学	1.7%	1.2%	6.1%	4.6%	26.6%	29.6%	34.9%	35.9%	22.9%	23.1%	7.9%	5.7%

5. 聞き取れて理解している時、その内容について英語で自分の考えを述べる												
学部	じゅうぶんできる		ほとんどできる		どちらかといえばできる		どちらかといえばできない		ほとんどできない		まったくできない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	0.0%	0.0%	2.2%	2.2%	34.1%	28.6%	37.4%	39.6%	19.8%	24.2%	6.6%	5.5%
共同獣医学部	0.0%	0.0%	3.4%	6.9%	20.7%	27.6%	31.0%	34.5%	24.1%	24.1%	20.7%	6.9%
教育学部	2.3%	0.5%	4.6%	5.1%	29.2%	27.8%	29.2%	34.3%	22.7%	22.7%	12.0%	9.7%
工学部	2.5%	0.7%	5.0%	5.5%	22.2%	21.8%	34.9%	36.0%	24.3%	28.7%	11.0%	7.3%
歯学部	0.0%	0.0%	12.5%	12.5%	25.0%	25.0%	12.5%	62.5%	37.5%	0.0%	12.5%	0.0%
水産学部	3.4%	2.7%	5.5%	4.8%	19.2%	19.9%	33.6%	34.9%	28.8%	28.1%	9.6%	9.6%
農学部	0.5%	0.0%	5.4%	3.0%	26.6%	26.6%	32.5%	39.9%	25.6%	20.7%	9.4%	9.9%
法文学部	1.2%	0.0%	4.1%	4.4%	29.1%	29.7%	33.7%	38.7%	25.3%	22.7%	6.7%	4.7%
理学部	1.7%	1.1%	6.3%	5.7%	31.4%	28.0%	25.1%	32.6%	22.9%	22.9%	12.6%	9.7%
全学	1.8%	0.6%	4.9%	4.7%	26.5%	25.8%	32.4%	36.7%	24.5%	24.5%	10.0%	7.7%

6. 聞き取れて理解している時、その内容について英語で助言や提案をする												
学部	じゅうぶんできる		ほとんどできる		どちらかといえばできる		どちらかといえばできない		ほとんどできない		まったくできない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	17.6%	15.4%	40.7%	40.7%	27.5%	35.2%	14.3%	8.8%
共同獣医学部	0.0%	0.0%	3.4%	3.4%	13.8%	24.1%	31.0%	44.8%	31.0%	13.8%	20.7%	13.8%
教育学部	1.9%	0.0%	3.2%	3.2%	13.9%	14.4%	33.8%	38.9%	31.0%	28.7%	16.2%	14.8%
工学部	1.4%	0.9%	3.0%	2.8%	16.5%	15.6%	33.9%	35.6%	29.6%	33.5%	15.6%	11.7%
歯学部	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	25.0%	37.5%	37.5%	37.5%	37.5%	12.5%	0.0%
水産学部	2.1%	1.4%	4.1%	1.4%	13.0%	15.1%	28.1%	34.9%	32.9%	31.5%	19.9%	15.8%
農学部	0.0%	0.5%	1.0%	2.0%	18.7%	17.7%	34.0%	35.5%	29.1%	32.0%	17.2%	12.3%
法文学部	0.3%	0.3%	2.6%	1.5%	14.0%	18.3%	40.1%	38.7%	31.1%	31.4%	11.9%	9.9%
理学部	1.1%	1.1%	2.3%	2.3%	22.9%	18.3%	29.1%	36.6%	28.0%	30.9%	16.6%	10.9%
全学	1.0%	0.6%	2.5%	2.1%	16.3%	16.7%	34.5%	37.1%	30.1%	31.6%	15.6%	11.9%

1. 辞書から発音記号・アクセントを調べ、正しく発音する												
学部	じゅうぶんできる		ほとんどできる		どちらかといえばできる		どちらかといえばできない		ほとんどできない		まったくできない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	1.1%	3.3%	25.3%	18.7%	35.2%	42.9%	26.4%	23.1%	11.0%	12.1%	1.1%	0.0%
共同獣医学部	3.4%	3.4%	10.3%	17.2%	37.9%	27.6%	27.6%	27.6%	13.8%	17.2%	6.9%	6.9%
教育学部	6.0%	5.6%	22.2%	18.1%	36.1%	36.1%	23.1%	23.6%	9.7%	14.4%	2.8%	2.3%
工学部	6.4%	5.5%	13.3%	15.4%	37.8%	38.8%	24.8%	19.3%	14.2%	17.0%	3.4%	4.1%
歯学部	12.5%	0.0%	12.5%	50.0%	37.5%	12.5%	12.5%	25.0%	12.5%	12.5%	12.5%	0.0%
水産学部	5.5%	6.8%	13.7%	14.4%	34.2%	32.2%	30.8%	20.5%	11.0%	21.2%	4.8%	4.8%
農学部	4.9%	8.4%	19.2%	15.8%	40.9%	43.8%	22.2%	20.7%	9.9%	9.4%	3.0%	2.0%
法文学部	5.5%	5.8%	18.6%	17.4%	35.8%	36.9%	25.3%	26.2%	11.9%	11.9%	2.9%	1.7%
理学部	10.3%	10.9%	17.7%	11.4%	33.7%	37.1%	22.3%	29.1%	12.0%	7.4%	4.0%	4.0%
全学	6.0%	6.4%	17.4%	16.1%	36.7%	37.8%	24.7%	23.0%	11.9%	13.7%	3.3%	3.0%

2. 英文の意味や文構造から考えて、適切に区切りながら読んでいく												
学部	じゅうぶんできる		ほとんどできる		どちらかといえばできる		どちらかといえばできない		ほとんどできない		まったくできない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	3.3%	3.3%	25.3%	20.9%	51.6%	47.3%	16.5%	20.9%	2.2%	6.6%	1.1%	1.1%
共同獣医学部	6.9%	3.4%	24.1%	24.1%	34.5%	37.9%	17.2%	24.1%	10.3%	3.4%	6.9%	6.9%
教育学部	4.6%	4.6%	22.7%	15.7%	45.8%	44.9%	21.3%	24.1%	3.7%	8.3%	1.9%	2.3%
工学部	7.1%	3.9%	18.1%	16.5%	44.3%	42.9%	19.7%	22.2%	8.0%	12.6%	2.8%	1.8%
歯学部	12.5%	0.0%	12.5%	25.0%	50.0%	75.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%
水産学部	2.1%	4.8%	18.5%	15.8%	41.8%	45.2%	24.0%	16.4%	10.3%	14.4%	3.4%	3.4%
農学部	1.5%	3.0%	21.7%	22.7%	52.7%	46.8%	16.7%	21.7%	5.4%	4.9%	2.0%	1.0%
法文学部	5.2%	3.8%	18.9%	20.1%	46.8%	46.8%	20.1%	23.0%	7.6%	5.5%	1.5%	0.9%
理学部	8.6%	5.7%	22.3%	12.6%	43.4%	48.6%	16.6%	21.7%	6.9%	8.6%	2.3%	2.9%
全学	5.2%	4.1%	20.3%	17.8%	46.0%	45.6%	19.4%	21.8%	6.8%	8.8%	2.3%	1.9%

3. つまったりせず、wpm(1分単位の音読スピード)を意識してスムーズに読んでいく												
学部	じゅうぶん できる		ほとんど できる		どちらかといえば できる		どちらかといえば できない		ほとんど できない		まったく できない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	1.1%	2.2%	7.7%	8.8%	30.8%	31.9%	39.6%	42.9%	15.4%	13.2%	5.5%	1.1%
共同獣医学部	0.0%	0.0%	20.7%	10.3%	20.7%	31.0%	31.0%	41.4%	20.7%	10.3%	6.9%	6.9%
教育学部	1.9%	1.4%	8.8%	7.4%	26.9%	32.4%	41.2%	38.9%	17.6%	17.1%	3.7%	2.8%
工学部	2.3%	2.5%	9.6%	6.2%	26.1%	31.0%	37.6%	34.9%	17.4%	21.6%	6.9%	3.9%
歯学部	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	37.5%	12.5%	37.5%	75.0%	12.5%	12.5%	12.5%	0.0%
水産学部	3.4%	2.1%	5.5%	5.5%	25.3%	32.2%	36.3%	32.2%	22.6%	19.9%	6.8%	8.2%
農学部	0.5%	1.5%	7.4%	9.9%	25.6%	36.0%	48.3%	32.5%	15.3%	15.8%	3.0%	4.4%
法文学部	3.2%	2.6%	9.0%	7.8%	26.7%	36.0%	38.4%	34.9%	18.9%	16.3%	3.8%	2.3%
理学部	5.7%	3.4%	5.7%	6.9%	29.1%	25.7%	32.0%	42.3%	23.4%	13.7%	4.0%	8.0%
全学	2.5%	2.2%	8.4%	7.3%	26.8%	32.3%	38.8%	36.4%	18.5%	17.5%	5.0%	4.2%

4. リエゾン(発音記号の連結)ルールを見つけ、連結発音を入れながら読んでいく												
学部	じゅうぶん できる		ほとんど できる		どちらかといえば できる		どちらかといえば できない		ほとんど できない		まったく できない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	0.0%	1.1%	4.4%	5.5%	27.5%	30.8%	35.2%	42.9%	25.3%	14.3%	7.7%	5.5%
共同獣医学部	0.0%	0.0%	6.9%	6.9%	13.8%	24.1%	34.5%	44.8%	34.5%	10.3%	10.3%	13.8%
教育学部	1.4%	0.9%	7.4%	6.9%	15.3%	26.4%	38.0%	35.6%	29.2%	22.7%	8.8%	7.4%
工学部	1.8%	2.3%	5.7%	6.4%	23.6%	23.9%	34.9%	39.2%	23.4%	21.1%	10.6%	7.1%
歯学部	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	12.5%	25.0%	12.5%	25.0%	37.5%	50.0%	25.0%	0.0%
水産学部	2.7%	0.7%	6.2%	9.6%	13.7%	21.9%	34.9%	32.2%	30.1%	24.7%	12.3%	11.0%
農学部	0.5%	1.5%	4.4%	6.9%	22.2%	26.6%	39.9%	42.4%	25.6%	18.2%	7.4%	4.4%
法文学部	2.6%	2.6%	7.6%	5.8%	18.6%	26.2%	34.6%	37.2%	27.0%	23.3%	9.6%	4.9%
理学部	2.9%	2.9%	5.7%	5.7%	21.1%	22.9%	34.9%	38.9%	20.6%	22.3%	14.9%	7.4%
全学	1.8%	1.9%	6.2%	6.6%	20.1%	25.1%	35.7%	38.3%	25.8%	21.4%	10.3%	6.7%

5. 気持ちや感情を示すため、単語や英文に意識的に音声変化をつけて読んでいく												
学部	じゅうぶん できる		ほとんど できる		どちらかといえば できる		どちらかといえば できない		ほとんど できない		まったく できない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	0.0%	0.0%	8.8%	6.6%	30.8%	34.1%	35.2%	41.8%	20.9%	12.1%	4.4%	5.5%
共同獣医学部	0.0%	0.0%	13.8%	6.9%	20.7%	41.4%	34.5%	27.6%	17.2%	10.3%	13.8%	13.8%
教育学部	2.8%	2.3%	10.2%	7.4%	23.1%	25.0%	32.4%	37.5%	24.5%	22.2%	6.9%	5.6%
工学部	2.5%	1.4%	6.9%	5.0%	27.8%	31.9%	33.7%	35.8%	20.6%	20.0%	8.5%	6.0%
歯学部	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	37.5%	25.0%	50.0%	25.0%	12.5%	25.0%	0.0%
水産学部	4.8%	2.1%	6.2%	6.2%	24.7%	30.8%	33.6%	30.1%	25.3%	24.7%	5.5%	6.2%
農学部	2.0%	2.0%	7.4%	5.9%	27.6%	30.0%	34.0%	38.4%	22.2%	19.2%	6.9%	4.4%
法文学部	2.9%	1.5%	5.8%	6.1%	24.4%	30.5%	36.3%	40.1%	24.7%	18.9%	5.8%	2.9%
理学部	5.1%	5.7%	5.7%	3.4%	32.0%	29.7%	30.9%	40.6%	18.9%	14.3%	7.4%	6.3%
全学	2.9%	2.0%	7.2%	5.7%	26.6%	30.5%	33.9%	37.5%	22.4%	19.1%	7.1%	5.2%

1. アイコンタクトを入れながら発話する口												
学部	じゅうぶん できる		ほとんど できる		どちらかといえ ばできる		どちらかといえ ばできない		ほとんど できない		まったく できない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	3.3%	1.1%	15.4%	8.8%	49.5%	48.4%	22.0%	27.5%	8.8%	12.1%	1.1%	2.2%
共同獣医学部	3.4%	3.4%	10.3%	10.3%	41.4%	27.6%	17.2%	31.0%	20.7%	20.7%	6.9%	6.9%
教育学部	7.9%	2.8%	12.5%	10.6%	36.1%	46.3%	24.1%	25.9%	15.7%	11.1%	3.7%	3.2%
工学部	5.3%	2.8%	10.3%	8.7%	34.6%	43.8%	30.0%	27.5%	14.7%	14.2%	5.0%	3.0%
歯学部	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	50.0%	50.0%	25.0%	25.0%	12.5%	12.5%	12.5%	0.0%
水産学部	6.2%	6.2%	15.8%	11.6%	33.6%	31.5%	26.0%	30.8%	13.7%	15.1%	4.8%	4.8%
農学部	3.4%	3.4%	12.3%	7.4%	38.4%	50.7%	25.1%	21.7%	15.8%	14.3%	4.9%	2.5%
法文学部	3.5%	2.6%	11.3%	9.9%	38.7%	42.2%	27.6%	34.9%	14.2%	9.0%	4.7%	1.5%
理学部	9.7%	6.3%	12.0%	6.9%	30.9%	40.6%	25.7%	30.3%	16.6%	14.9%	5.1%	1.1%
全学	5.4%	3.4%	12.0%	9.2%	36.7%	43.2%	26.6%	28.8%	14.7%	12.9%	4.6%	2.6%

2. 顔の表情を入れながら発話する												
学部	じゅうぶん できる		ほとんど できる		どちらかといえ ばできる		どちらかといえ ばできない		ほとんど できない		まったく できない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	3.3%	0.0%	16.5%	6.6%	37.4%	45.1%	28.6%	35.2%	13.2%	11.0%	1.1%	2.2%
共同獣医学部	6.9%	3.4%	6.9%	13.8%	27.6%	27.6%	31.0%	31.0%	20.7%	17.2%	6.9%	6.9%
教育学部	8.3%	2.3%	11.6%	10.2%	32.9%	39.4%	26.4%	34.7%	17.6%	11.6%	3.2%	1.9%
工学部	5.0%	2.5%	8.3%	8.0%	30.0%	36.0%	33.7%	32.8%	17.7%	17.7%	5.3%	3.0%
歯学部	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	37.5%	37.5%	50.0%	37.5%	0.0%	12.5%	12.5%	0.0%
水産学部	6.8%	5.5%	15.8%	10.3%	28.8%	28.8%	27.4%	31.5%	15.8%	17.1%	5.5%	6.8%
農学部	2.5%	2.0%	11.8%	8.9%	30.0%	31.0%	30.5%	36.5%	21.2%	19.2%	3.9%	2.5%
法文学部	4.1%	3.5%	9.0%	9.9%	32.0%	27.0%	30.8%	43.0%	20.1%	14.2%	4.1%	2.3%
理学部	9.7%	6.9%	9.1%	7.4%	26.9%	29.1%	30.9%	29.7%	18.3%	23.4%	5.1%	3.4%
全学	5.5%	3.2%	10.4%	9.0%	30.8%	32.9%	30.6%	35.3%	18.2%	16.5%	4.4%	3.0%

3. 指や手の動きを入れながら発話する												
学部	じゅうぶん できる		ほとんど できる		どちらかといえ ばできる		どちらかといえ ばできない		ほとんど できない		まったく できない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	5.5%	1.1%	20.9%	9.9%	44.0%	50.5%	19.8%	26.4%	7.7%	11.0%	2.2%	1.1%
共同獣医学部	10.3%	3.4%	6.9%	10.3%	37.9%	41.4%	13.8%	27.6%	24.1%	13.8%	6.9%	3.4%
教育学部	7.9%	3.7%	15.7%	11.6%	35.6%	46.3%	27.3%	26.9%	10.2%	10.2%	3.2%	1.4%
工学部	7.1%	3.7%	12.8%	11.9%	39.0%	42.0%	24.1%	26.8%	12.8%	13.5%	4.1%	2.1%
歯学部	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	37.5%	50.0%	25.0%	25.0%	25.0%	12.5%	12.5%	0.0%
水産学部	8.2%	6.8%	21.2%	13.0%	37.7%	37.0%	15.8%	28.8%	14.4%	11.6%	2.7%	2.7%
農学部	3.9%	2.5%	13.8%	10.3%	38.9%	37.9%	27.1%	31.0%	13.3%	16.3%	3.0%	2.0%
法文学部	4.4%	3.8%	13.1%	11.6%	35.8%	39.0%	29.4%	33.7%	13.7%	9.9%	3.8%	2.0%
理学部	11.4%	8.0%	12.0%	9.7%	37.7%	38.9%	20.0%	25.1%	13.7%	14.9%	5.1%	3.4%
全学	6.7%	4.1%	14.3%	11.3%	37.9%	41.1%	24.4%	28.8%	12.9%	12.5%	3.8%	2.1%



4. 内容や気持ちを表すために、体の動きも使って発話する												
学部	じゅうぶんできる		ほとんどできる		どちらかといえばできる		どちらかといえばできない		ほとんどできない		まったくできない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	2.2%	1.1%	15.4%	3.3%	34.1%	37.4%	33.0%	41.8%	12.1%	14.3%	3.3%	2.2%
共同獣医学部	6.9%	3.4%	10.3%	6.9%	27.6%	31.0%	27.6%	37.9%	20.7%	17.2%	6.9%	3.4%
教育学部	7.9%	3.7%	11.6%	6.9%	30.6%	38.0%	32.9%	36.6%	13.9%	12.0%	3.2%	2.8%
工学部	4.6%	3.4%	11.9%	8.5%	32.8%	37.4%	31.0%	33.0%	15.8%	15.1%	3.9%	2.5%
歯学部	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	37.5%	37.5%	25.0%	50.0%	12.5%	0.0%	25.0%	0.0%
水産学部	6.8%	4.8%	15.8%	13.0%	36.3%	29.5%	24.7%	31.5%	12.3%	17.8%	4.1%	3.4%
農学部	3.0%	2.5%	10.3%	6.4%	34.5%	32.0%	31.5%	38.4%	15.3%	17.2%	5.4%	3.4%
法文学部	5.2%	2.6%	8.4%	9.9%	33.4%	33.4%	32.3%	36.6%	16.9%	13.4%	3.8%	4.1%
理学部	9.7%	6.3%	8.0%	8.0%	33.1%	33.1%	28.0%	35.4%	16.0%	12.6%	5.1%	4.6%
全学	5.6%	3.5%	11.0%	8.4%	33.2%	34.7%	30.7%	35.7%	15.3%	14.5%	4.2%	3.3%

5. 性別、年齢、出身地や出身高校を英語で言う口												
学部	じゅうぶんできる		ほとんどできる		どちらかといえばできる		どちらかといえばできない		ほとんどできない		まったくできない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	16.5%	14.3%	33.0%	22.0%	45.1%	50.5%	3.3%	9.9%	2.2%	3.3%	0.0%	0.0%
共同獣医学部	24.1%	13.8%	20.7%	20.7%	34.5%	48.3%	20.7%	13.8%	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%
教育学部	26.4%	18.1%	33.3%	27.8%	30.1%	43.5%	6.0%	6.5%	3.2%	2.8%	0.9%	1.4%
工学部	25.2%	20.9%	28.7%	24.1%	33.5%	40.4%	8.3%	7.3%	2.8%	5.7%	1.6%	1.6%
歯学部	25.0%	25.0%	12.5%	37.5%	37.5%	25.0%	12.5%	12.5%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%
水産学部	20.5%	22.6%	34.9%	27.4%	32.2%	32.2%	8.9%	11.0%	3.4%	4.8%	0.0%	2.1%
農学部	19.7%	18.2%	26.1%	31.0%	42.4%	39.9%	6.9%	6.4%	3.9%	3.4%	1.0%	1.0%
法文学部	26.2%	21.2%	30.2%	32.3%	39.0%	39.5%	3.5%	5.5%	0.6%	1.5%	0.6%	0.0%
理学部	30.3%	27.4%	25.7%	20.6%	34.3%	39.4%	6.3%	9.7%	2.9%	2.9%	0.6%	0.0%
全学	24.5%	20.6%	29.6%	26.9%	35.9%	40.4%	6.6%	7.6%	2.5%	3.5%	0.9%	1.0%

6. 大学に関する所属や専攻(大学名、学部、学科、学年)を英語で言う												
学部	じゅうぶんできる		ほとんどできる		どちらかといえばできる		どちらかといえばできない		ほとんどできない		まったくできない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	11.0%	8.8%	22.0%	22.0%	41.8%	45.1%	19.8%	18.7%	5.5%	5.5%	0.0%	0.0%
共同獣医学部	13.8%	3.4%	6.9%	13.8%	27.6%	41.4%	41.4%	31.0%	10.3%	3.4%	0.0%	6.9%
教育学部	11.6%	7.9%	19.0%	19.0%	26.9%	41.2%	26.9%	21.8%	11.6%	6.0%	4.2%	4.2%
工学部	11.2%	8.5%	19.5%	20.0%	29.1%	38.1%	25.9%	20.2%	11.5%	10.6%	2.8%	2.8%
歯学部	0.0%	12.5%	25.0%	37.5%	25.0%	37.5%	25.0%	12.5%	12.5%	0.0%	12.5%	0.0%
水産学部	6.8%	11.0%	17.8%	21.9%	31.5%	30.1%	26.0%	22.6%	16.4%	9.6%	1.4%	4.8%
農学部	3.4%	8.4%	9.4%	18.2%	41.9%	37.4%	28.6%	26.6%	11.8%	8.4%	4.9%	1.0%
法文学部	10.5%	7.0%	14.2%	19.2%	39.0%	36.3%	23.8%	31.1%	11.0%	6.1%	1.5%	0.3%
理学部	14.3%	15.4%	16.0%	16.6%	34.9%	38.3%	20.0%	22.9%	12.0%	5.1%	2.9%	1.7%
全学	10.1%	9.0%	16.5%	19.4%	33.9%	37.8%	25.2%	24.0%	11.6%	7.6%	2.7%	2.2%



7. 何を専門的に学んでいきたいか、研究テーマと理由を英語で言う口												
学部	じゅうぶんできる		ほとんどできる		どちらかといえばできる		どちらかといえばできない		ほとんどできない		まったくできない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	2.2%	1.1%	5.5%	7.7%	27.5%	28.6%	29.7%	40.7%	25.3%	16.5%	9.9%	5.5%
共同獣医学部	0.0%	0.0%	6.9%	3.4%	17.2%	24.1%	27.6%	41.4%	24.1%	20.7%	24.1%	10.3%
教育学部	2.8%	2.3%	5.6%	4.6%	25.0%	21.8%	29.2%	38.4%	25.9%	24.1%	11.6%	8.8%
工学部	3.2%	0.9%	6.0%	6.0%	20.4%	23.2%	31.2%	35.8%	25.5%	27.3%	13.8%	6.9%
歯学部	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	37.5%	50.0%	25.0%	25.0%	12.5%	0.0%
水産学部	3.4%	3.4%	4.1%	3.4%	11.6%	15.8%	31.5%	46.6%	34.2%	17.1%	15.1%	13.7%
農学部	1.0%	1.5%	2.5%	3.4%	15.8%	22.7%	34.5%	40.9%	30.0%	22.2%	16.3%	9.4%
法文学部	2.9%	0.6%	4.9%	6.4%	20.9%	23.8%	36.6%	39.8%	23.8%	25.0%	10.8%	4.4%
理学部	4.0%	4.6%	8.0%	7.4%	20.0%	25.1%	31.4%	34.9%	24.0%	21.1%	12.6%	6.9%
全学	2.8%	1.7%	5.3%	5.5%	20.1%	22.9%	32.4%	38.9%	26.3%	23.5%	13.1%	7.5%

8. 卒業後はどのような進路を計画しているか、理由を含めて英語で言う												
学部	じゅうぶんできる		ほとんどできる		どちらかといえばできる		どちらかといえばできない		ほとんどできない		まったくできない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	2.2%	1.1%	8.8%	6.6%	34.1%	29.7%	20.9%	33.0%	19.8%	23.1%	14.3%	6.6%
共同獣医学部	3.4%	0.0%	6.9%	6.9%	13.8%	24.1%	31.0%	37.9%	24.1%	24.1%	20.7%	6.9%
教育学部	3.7%	3.2%	11.1%	7.9%	26.4%	32.4%	25.9%	25.0%	20.8%	22.2%	12.0%	9.3%
工学部	3.0%	2.1%	5.5%	3.9%	22.9%	20.9%	27.8%	33.5%	26.6%	28.4%	14.2%	11.2%
歯学部	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	50.0%	25.0%	50.0%	37.5%	0.0%	12.5%	0.0%
水産学部	2.1%	1.4%	5.5%	1.4%	14.4%	19.2%	25.3%	34.9%	33.6%	23.3%	19.2%	19.9%
農学部	0.5%	1.5%	3.9%	2.0%	14.8%	20.2%	34.5%	35.0%	30.5%	30.0%	15.8%	11.3%
法文学部	2.3%	0.6%	7.6%	4.9%	17.4%	21.5%	34.6%	39.2%	27.0%	26.2%	11.0%	7.6%
理学部	4.6%	2.3%	5.7%	6.9%	20.6%	25.7%	23.4%	33.1%	29.7%	18.9%	16.0%	13.1%
全学	2.7%	1.7%	6.7%	4.7%	20.7%	23.5%	28.8%	34.0%	27.0%	25.4%	14.2%	10.8%

9. 具体的にめざすべき大学生像と、その理由や目的を英語で言う口												
学部	じゅうぶんできる		ほとんどできる		どちらかといえばできる		どちらかといえばできない		ほとんどできない		まったくできない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	1.1%	1.1%	7.7%	3.3%	28.6%	24.2%	27.5%	37.4%	24.2%	26.4%	11.0%	7.7%
共同獣医学部	0.0%	0.0%	3.4%	3.4%	20.7%	10.3%	27.6%	48.3%	24.1%	27.6%	24.1%	10.3%
教育学部	1.4%	1.9%	2.8%	1.9%	16.7%	22.7%	33.8%	32.4%	31.0%	27.3%	14.4%	13.9%
工学部	1.6%	0.7%	3.9%	2.5%	21.1%	21.3%	31.4%	36.0%	26.4%	27.5%	15.6%	11.9%
歯学部	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%	62.5%	25.0%	12.5%	25.0%	0.0%
水産学部	1.4%	0.7%	4.1%	1.4%	13.7%	16.4%	27.4%	36.3%	32.2%	23.3%	21.2%	21.9%
農学部	0.0%	1.5%	2.0%	3.0%	16.3%	17.2%	34.5%	36.0%	30.5%	31.5%	16.7%	10.8%
法文学部	0.6%	0.3%	4.9%	3.5%	15.7%	18.9%	39.5%	39.0%	25.9%	29.7%	13.4%	8.7%
理学部	2.3%	0.6%	3.4%	5.1%	16.6%	17.1%	30.9%	38.9%	27.4%	22.9%	19.4%	15.4%
全学	1.2%	0.8%	3.9%	2.9%	18.1%	19.6%	33.1%	36.9%	27.9%	27.4%	16.0%	12.3%

10. どのような価値観や信念をもっているか(またはもつべきか)、英語で言う												
学部	じゅうぶん できる		ほとんど できる		どちらかといえば できる		どちらかといえば できない		ほとんど できない		まったく できない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	1.1%	0.0%	8.8%	3.3%	25.3%	24.2%	30.8%	40.7%	22.0%	20.9%	12.1%	11.0%
共同獣医学部	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	17.2%	13.8%	24.1%	48.3%	34.5%	24.1%	24.1%	13.8%
教育学部	0.9%	0.5%	2.8%	2.3%	17.1%	18.1%	30.1%	37.0%	30.6%	28.2%	18.5%	13.9%
工学部	2.1%	1.6%	5.7%	3.7%	18.1%	21.1%	30.3%	33.7%	28.0%	27.1%	15.8%	12.8%
歯学部	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	12.5%	25.0%	62.5%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%
水産学部	3.4%	2.1%	3.4%	2.1%	13.0%	17.1%	27.4%	33.6%	30.8%	27.4%	21.9%	17.8%
農学部	2.0%	2.0%	2.0%	2.5%	15.3%	18.7%	34.0%	31.0%	31.0%	31.0%	15.8%	14.8%
法文学部	1.2%	0.3%	4.7%	4.7%	15.1%	17.2%	38.7%	38.1%	28.2%	30.8%	12.2%	9.0%
理学部	2.3%	2.3%	2.9%	4.6%	17.1%	17.1%	30.9%	37.7%	26.3%	23.4%	20.6%	14.9%
全学	1.8%	1.2%	4.2%	3.4%	16.9%	18.8%	32.2%	35.9%	28.6%	27.7%	16.4%	12.9%

1. (B1.1) 自分に直接関わりのある環境(学校、職場、地域など)での出来事を、身近な状況で使われる語彙・文法をもちいて、まとまりのある書き方で描写することができる												
学部	じゅうぶん できる		ほとんど できる		どちらかといえば できる		どちらかといえば できない		ほとんど できない		まったく できない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	42.9%	42.9%	36.3%	41.8%	18.7%	11.0%	1.1%	4.4%
共同獣医学部	0.0%	0.0%	10.3%	3.4%	27.6%	41.4%	27.6%	34.5%	20.7%	17.2%	13.8%	3.4%
教育学部	0.5%	0.9%	5.6%	4.2%	35.2%	31.9%	36.6%	39.4%	18.5%	19.0%	3.7%	4.6%
工学部	0.9%	0.5%	5.7%	3.9%	30.0%	31.0%	37.6%	39.9%	19.0%	20.4%	6.7%	4.4%
歯学部	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	62.5%	25.0%	37.5%	12.5%	0.0%	12.5%	0.0%
水産学部	1.4%	0.7%	6.2%	6.2%	31.5%	30.1%	32.2%	32.2%	22.6%	26.0%	6.2%	4.8%
農学部	0.0%	0.0%	4.4%	4.4%	33.0%	33.5%	36.0%	39.4%	19.7%	17.7%	6.9%	4.9%
法文学部	0.6%	1.2%	4.9%	5.2%	43.3%	43.0%	28.2%	36.3%	19.5%	11.9%	3.5%	2.3%
理学部	0.6%	2.3%	4.6%	3.4%	31.4%	36.0%	37.1%	38.3%	19.4%	15.4%	6.9%	4.6%
全学	0.6%	0.8%	5.1%	4.2%	34.9%	35.4%	34.5%	38.2%	19.5%	17.4%	5.5%	4.1%

2. (B1.2) 物事の順序に従って、旅行記や自分史、身近なエピソードなどの物語文を、いくつかの段落で書くことができる。												
学部	じゅうぶん できる		ほとんど できる		どちらかといえば できる		どちらかといえば できない		ほとんど できない		まったく できない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	0.0%	0.0%	4.4%	1.1%	42.9%	38.5%	30.8%	39.6%	19.8%	17.6%	2.2%	3.3%
共同獣医学部	3.4%	0.0%	6.9%	3.4%	41.4%	41.4%	20.7%	34.5%	17.2%	17.2%	10.3%	3.4%
教育学部	0.5%	0.5%	8.8%	4.6%	40.7%	45.8%	25.0%	23.6%	18.5%	19.9%	6.5%	5.6%
工学部	0.9%	0.2%	7.1%	4.1%	30.5%	32.8%	32.8%	36.0%	20.2%	22.0%	8.5%	4.8%
歯学部	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	62.5%	25.0%	25.0%	0.0%	12.5%	25.0%	0.0%
水産学部	2.1%	0.7%	4.8%	7.5%	26.0%	30.8%	34.2%	31.5%	24.7%	23.3%	8.2%	6.2%
農学部	0.0%	0.0%	5.4%	4.9%	32.0%	33.5%	32.0%	37.4%	21.7%	20.2%	8.9%	3.9%
法文学部	1.7%	1.7%	5.2%	5.2%	43.6%	41.3%	30.2%	36.0%	16.0%	12.5%	3.2%	3.2%
理学部	0.6%	2.3%	8.0%	5.1%	37.7%	40.0%	32.0%	30.3%	16.0%	16.6%	5.7%	5.7%
全学	1.0%	0.8%	6.4%	4.7%	36.1%	37.6%	30.8%	33.7%	19.1%	18.7%	6.6%	4.6%

3. (B2.1) そのトピックについて何か自分が知っていれば、自分の考えを示しつつ、ある程度の結束性のあるエッセイやレポートを、幅広い語彙をある程度使って、書くことができる												
学部	じゅうぶん できる		ほとんど できる		どちらかといえば できる		どちらかといえば できない		ほとんど できない		まったく できない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	0.0%	0.0%	5.5%	2.2%	26.4%	29.7%	45.1%	49.5%	16.5%	13.2%	6.6%	5.5%
共同獣医学部	0.0%	0.0%	10.3%	6.9%	20.7%	37.9%	34.5%	27.6%	20.7%	20.7%	13.8%	6.9%
教育学部	0.5%	0.5%	6.0%	5.1%	21.3%	21.3%	38.4%	37.0%	24.1%	27.8%	9.7%	8.3%
工学部	0.7%	0.5%	4.6%	3.4%	25.7%	23.6%	31.4%	39.0%	24.1%	25.5%	13.5%	8.0%
歯学部	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	37.5%	25.0%	37.5%	12.5%	25.0%	12.5%	0.0%
水産学部	2.7%	0.0%	2.7%	5.5%	19.2%	19.2%	35.6%	37.0%	27.4%	26.7%	12.3%	11.6%
農学部	0.0%	0.0%	2.0%	3.4%	20.7%	22.7%	35.5%	40.9%	31.0%	24.1%	10.8%	8.9%
法文学部	0.9%	0.3%	3.8%	2.9%	27.3%	27.6%	41.0%	45.3%	19.5%	19.5%	7.6%	4.4%
理学部	0.0%	0.0%	5.1%	5.1%	25.1%	24.0%	37.7%	40.0%	24.6%	21.1%	7.4%	9.7%
全学	0.7%	0.2%	4.3%	3.9%	24.3%	24.3%	36.7%	40.6%	23.8%	23.2%	10.3%	7.7%

4. (B2.2) 自分の専門分野や関心のある事柄であれば、複雑な内容を含む報告書や論文などを、その原因や結果も考えて、詳細な文章で書くことができる												
学部	じゅうぶん できる		ほとんど できる		どちらかといえば できる		どちらかといえば できない		ほとんど できない		まったく できない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	0.0%	0.0%	1.1%	2.2%	22.0%	12.1%	37.4%	50.5%	26.4%	26.4%	13.2%	8.8%
共同獣医学部	0.0%	0.0%	3.4%	0.0%	13.8%	20.7%	41.4%	41.4%	24.1%	20.7%	17.2%	17.2%
教育学部	0.5%	0.0%	2.3%	0.9%	15.7%	17.1%	30.6%	38.9%	34.3%	30.1%	16.7%	13.0%
工学部	0.9%	0.0%	2.3%	2.3%	16.7%	20.4%	33.3%	37.8%	27.8%	28.7%	19.0%	10.8%
歯学部	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	12.5%	25.0%	62.5%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%
水産学部	1.4%	0.0%	2.1%	2.1%	11.0%	10.3%	28.8%	38.4%	37.7%	30.8%	19.2%	18.5%
農学部	0.0%	1.5%	1.5%	2.5%	12.3%	11.8%	33.0%	36.0%	36.0%	34.5%	17.2%	13.8%
法文学部	0.3%	0.3%	2.6%	2.3%	11.6%	15.4%	38.4%	38.1%	31.7%	32.3%	15.4%	11.6%
理学部	0.6%	0.6%	0.6%	2.9%	20.0%	16.6%	32.6%	38.9%	30.9%	26.9%	15.4%	14.3%
全学	0.5%	0.3%	2.0%	2.1%	15.1%	16.1%	33.8%	38.8%	31.5%	30.0%	17.1%	12.6%

1. (B1.2) 自然な速さの録音や放送(天気予報や空港のアナウンスなど)を聞いて、自分に関心のある、具体的な情報の大部分を聞き取ることができる												
学部	じゅうぶん できる		ほとんど できる		どちらかといえば できる		どちらかといえば できない		ほとんど できない		まったく できない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	0.0%	0.0%	3.3%	4.4%	29.7%	28.6%	44.0%	38.5%	14.3%	20.9%	8.8%	7.7%
共同獣医学部	3.4%	0.0%	0.0%	6.9%	41.4%	27.6%	20.7%	44.8%	31.0%	13.8%	3.4%	6.9%
教育学部	1.4%	0.0%	3.7%	4.2%	30.6%	32.4%	32.4%	33.8%	21.3%	21.8%	10.6%	7.9%
工学部	1.6%	0.5%	3.2%	3.2%	27.5%	36.2%	34.9%	33.0%	24.5%	20.2%	8.3%	6.9%
歯学部	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	37.5%	37.5%	25.0%	37.5%	25.0%	25.0%	12.5%	0.0%
水産学部	1.4%	1.4%	6.2%	4.1%	19.2%	28.1%	34.9%	32.9%	31.5%	25.3%	6.8%	8.2%
農学部	0.0%	0.0%	3.0%	5.9%	26.6%	33.0%	41.4%	34.0%	20.7%	22.7%	8.4%	4.4%
法文学部	0.6%	0.6%	4.1%	7.3%	26.5%	34.0%	38.7%	36.6%	23.8%	17.7%	6.4%	3.8%
理学部	1.7%	1.7%	8.0%	7.4%	30.9%	38.3%	31.4%	30.3%	22.3%	16.6%	5.7%	5.7%
全学	1.1%	0.5%	4.1%	5.2%	27.6%	33.8%	36.0%	34.2%	23.4%	20.2%	7.8%	6.1%

2. (B2.1) トピックが身近であれば、長い話や複雑な議論の流れを理解することができる												
学部	じゅうぶん できる		ほとんど できる		どちらかといえば できる		どちらかといえば できない		ほとんど できない		まったく できない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	1.1%	0.0%	4.4%	5.5%	37.4%	28.6%	27.5%	36.3%	23.1%	19.8%	6.6%	9.9%
共同獣医学部	0.0%	3.4%	10.3%	3.4%	31.0%	34.5%	31.0%	27.6%	20.7%	24.1%	6.9%	6.9%
教育学部	0.5%	0.5%	7.4%	2.8%	28.7%	31.0%	31.9%	37.0%	19.0%	20.4%	12.5%	8.3%
工学部	1.8%	0.5%	5.5%	4.4%	32.6%	33.7%	30.0%	33.3%	21.1%	20.9%	8.9%	7.3%
歯学部	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	37.5%	50.0%	12.5%	25.0%	37.5%	25.0%	12.5%	0.0%
水産学部	0.7%	1.4%	10.3%	3.4%	24.7%	30.8%	32.9%	32.9%	23.3%	21.2%	8.2%	10.3%
農学部	0.5%	0.5%	4.9%	6.4%	33.0%	32.0%	33.0%	30.5%	18.7%	24.6%	9.9%	5.9%
法文学部	0.6%	0.3%	5.5%	3.2%	33.1%	37.2%	28.8%	34.6%	26.7%	18.6%	5.2%	6.1%
理学部	1.7%	1.1%	8.6%	9.1%	34.3%	41.1%	29.7%	25.1%	17.1%	18.3%	8.6%	5.1%
全学	1.0%	0.6%	6.4%	4.6%	32.0%	34.2%	30.4%	32.8%	21.7%	20.6%	8.5%	7.2%

1. (B1.1) 身近なトピック(学校・趣味・将来の希望)について、簡単な英語を幅広く使って意見を表明し、情報を交換することができる												
学部	じゅうぶん できる		ほとんど できる		どちらかといえば できる		どちらかといえば できない		ほとんど できない		まったく できない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	0.0%	0.0%	6.6%	6.6%	49.5%	36.3%	23.1%	42.9%	16.5%	12.1%	4.4%	2.2%
共同獣医学部	6.9%	3.4%	6.9%	3.4%	41.4%	31.0%	17.2%	41.4%	24.1%	13.8%	3.4%	6.9%
教育学部	2.8%	1.4%	8.3%	3.7%	40.7%	46.8%	28.7%	28.7%	16.2%	15.7%	3.2%	3.7%
工学部	3.4%	0.7%	5.5%	5.0%	37.8%	36.2%	29.6%	35.1%	18.1%	18.8%	5.5%	4.1%
歯学部	0.0%	0.0%	12.5%	12.5%	50.0%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	12.5%	12.5%	0.0%
水産学部	2.1%	2.7%	8.9%	4.1%	34.9%	39.7%	28.1%	30.1%	22.6%	19.2%	3.4%	4.1%
農学部	0.5%	1.0%	4.9%	8.4%	41.9%	42.4%	31.5%	30.0%	17.2%	14.3%	3.9%	3.9%
法文学部	0.9%	1.2%	8.4%	8.1%	47.1%	44.2%	28.2%	30.8%	13.4%	14.5%	2.0%	1.2%
理学部	2.9%	1.1%	6.9%	7.4%	43.4%	42.3%	25.1%	32.0%	16.6%	14.9%	5.1%	2.3%
全学	2.1%	1.2%	7.0%	6.2%	41.7%	41.1%	28.2%	32.3%	16.9%	16.1%	4.0%	3.2%

2. (B1.1) 個人的に関心のある具体的なトピックについて、簡単な英語を用いて、社交的な会話を続けることができる												
学部	じゅうぶん できる		ほとんど できる		どちらかといえば できる		どちらかといえば できない		ほとんど できない		まったく できない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	0.0%	0.0%	1.1%	3.3%	44.0%	37.4%	33.0%	39.6%	17.6%	15.4%	4.4%	4.4%
共同獣医学部	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%	31.0%	31.0%	37.9%	37.9%	17.2%	24.1%	10.3%	6.9%
教育学部	1.9%	0.5%	5.6%	4.6%	35.2%	29.6%	31.0%	39.8%	19.0%	20.4%	7.4%	5.1%
工学部	2.1%	0.9%	4.4%	4.6%	33.0%	33.3%	32.6%	36.5%	20.4%	17.9%	7.6%	6.9%
歯学部	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	37.5%	37.5%	37.5%	62.5%	12.5%	0.0%	12.5%	0.0%
水産学部	2.7%	2.1%	6.8%	5.5%	30.8%	30.1%	32.2%	36.3%	21.2%	21.2%	6.2%	4.8%
農学部	0.5%	1.0%	3.0%	5.9%	34.0%	35.5%	35.0%	34.0%	23.2%	19.7%	4.4%	3.9%
法文学部	1.2%	0.6%	5.8%	5.8%	38.4%	35.8%	34.3%	34.3%	16.6%	21.2%	3.8%	2.3%
理学部	1.1%	1.1%	8.0%	4.6%	32.0%	32.0%	31.4%	37.7%	22.9%	19.4%	4.6%	5.1%
全学	1.5%	0.8%	5.0%	4.9%	34.8%	33.4%	33.0%	36.6%	19.8%	19.5%	5.8%	4.8%

3. (B2.1) ある程度なじみのあるトピックならば、新聞・インターネットで読んだり、テレビで見たニュースの要点について議論することができる												
学部	じゅうぶんできる		ほとんどできる		どちらかといえばできる		どちらかといえばできない		ほとんどできない		まったくできない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	0.0%	0.0%	2.2%	2.2%	24.2%	25.3%	35.2%	46.2%	29.7%	18.7%	8.8%	7.7%
共同獣医学部	0.0%	0.0%	10.3%	0.0%	27.6%	20.7%	24.1%	48.3%	20.7%	17.2%	17.2%	13.8%
教育学部	0.0%	0.5%	2.8%	1.9%	18.1%	16.2%	36.6%	45.4%	29.6%	23.1%	13.0%	13.0%
工学部	1.1%	0.7%	2.5%	0.9%	18.6%	21.1%	38.8%	41.1%	28.2%	28.9%	10.8%	7.3%
歯学部	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	50.0%	50.0%	12.5%	12.5%	12.5%	12.5%
水産学部	1.4%	2.1%	4.8%	3.4%	11.0%	17.1%	35.6%	34.2%	36.3%	30.1%	11.0%	13.0%
農学部	0.0%	0.5%	0.5%	3.0%	18.7%	20.2%	40.9%	39.9%	26.1%	28.1%	13.8%	8.4%
法文学部	0.6%	0.3%	3.5%	3.2%	20.6%	20.6%	43.3%	42.7%	22.4%	26.5%	9.6%	6.7%
理学部	2.3%	0.6%	3.4%	2.9%	20.6%	25.7%	33.1%	36.6%	26.3%	26.3%	14.3%	8.0%
全学	0.8%	0.6%	2.9%	2.2%	19.0%	20.6%	38.4%	41.2%	27.3%	26.5%	11.6%	8.8%

4. (B2.1) 自分が学んだトピックや自分の興味や経験の範囲内のトピックなら、抽象的なトピックであっても、議論できる												
学部	じゅうぶんできる		ほとんどできる		どちらかといえばできる		どちらかといえばできない		ほとんどできない		まったくできない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	0.0%	0.0%	2.2%	1.1%	19.8%	20.9%	36.3%	45.1%	31.9%	24.2%	9.9%	8.8%
共同獣医学部	0.0%	0.0%	3.4%	3.4%	20.7%	17.2%	41.4%	44.8%	17.2%	20.7%	17.2%	13.8%
教育学部	0.0%	0.0%	1.4%	1.4%	19.9%	21.3%	35.2%	36.1%	31.0%	27.3%	12.5%	13.9%
工学部	0.7%	0.7%	3.7%	1.6%	20.6%	21.3%	34.4%	40.6%	28.2%	27.8%	12.4%	8.0%
歯学部	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	37.5%	75.0%	25.0%	12.5%	12.5%	12.5%
水産学部	2.1%	0.7%	3.4%	2.7%	12.3%	13.7%	31.5%	35.6%	32.2%	34.9%	18.5%	12.3%
農学部	0.5%	0.0%	0.0%	2.5%	21.7%	19.7%	35.0%	36.0%	30.0%	30.5%	12.8%	11.3%
法文学部	0.6%	0.0%	2.3%	2.6%	16.3%	20.9%	42.4%	39.2%	27.3%	30.2%	11.0%	7.0%
理学部	2.3%	0.6%	4.0%	3.4%	20.0%	23.4%	30.3%	38.9%	29.7%	26.3%	13.7%	7.4%
全学	0.8%	0.3%	2.5%	2.2%	18.9%	20.4%	35.8%	39.0%	29.1%	28.6%	12.8%	9.5%

1. (B12) インターネットや参考図書などを調べて、学業や仕事に関係ある情報を手に入れることができる。必要であれば時に辞書を用いて、図表と関連づけながら理解することができる												
学部	じゅうぶんできる		ほとんどできる		どちらかといえばできる		どちらかといえばできない		ほとんどできない		まったくできない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	1.1%	0.0%	6.6%	3.3%	41.8%	46.2%	29.7%	37.4%	18.7%	9.9%	2.2%	3.3%
共同獣医学部	10.3%	0.0%	6.9%	6.9%	44.8%	48.3%	34.5%	27.6%	3.4%	13.8%	0.0%	3.4%
教育学部	2.3%	0.5%	10.2%	6.9%	34.3%	39.4%	29.2%	27.8%	18.1%	19.4%	6.0%	6.0%
工学部	3.2%	2.5%	5.3%	8.0%	38.8%	39.4%	28.9%	25.9%	18.8%	17.9%	5.0%	6.2%
歯学部	0.0%	0.0%	12.5%	25.0%	50.0%	50.0%	25.0%	12.5%	0.0%	12.5%	12.5%	0.0%
水産学部	4.1%	2.1%	7.5%	7.5%	31.5%	28.1%	24.7%	34.2%	23.3%	20.5%	8.9%	7.5%
農学部	1.0%	1.0%	4.9%	5.4%	40.4%	45.8%	31.5%	23.2%	16.3%	22.2%	5.9%	2.5%
法文学部	2.0%	1.2%	7.8%	10.5%	44.2%	43.9%	27.9%	28.2%	13.7%	13.4%	4.4%	2.9%
理学部	6.9%	4.6%	15.4%	10.3%	33.7%	41.7%	22.3%	25.7%	14.9%	13.7%	6.9%	4.0%
全学	3.0%	1.8%	7.8%	8.1%	38.7%	41.0%	28.1%	27.6%	16.9%	16.9%	5.5%	4.7%

2. (B2.2) 自分の専門分野の論文や資料から、辞書を使わずに、必要な情報や論点を読み取ることができる												
学部	じゅうぶん できる		ほとんど できる		どちらかといえば できる		どちらかといえば できない		ほとんど できない		まったく できない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	0.0%	0.0%	2.2%	1.1%	16.5%	20.9%	23.1%	40.7%	41.8%	23.1%	16.5%	14.3%
共同獣医学部	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%	10.3%	10.3%	34.5%	27.6%	44.8%	44.8%	6.9%	17.2%
教育学部	0.0%	0.0%	2.8%	0.5%	9.3%	12.5%	35.2%	35.2%	34.7%	35.6%	18.1%	16.2%
工学部	1.1%	0.5%	1.4%	2.3%	14.4%	18.8%	32.1%	34.6%	32.1%	32.1%	18.8%	11.7%
歯学部	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	25.0%	50.0%	37.5%	25.0%	37.5%	12.5%	0.0%
水産学部	0.7%	0.0%	2.7%	4.1%	7.5%	8.9%	29.5%	32.9%	35.6%	32.2%	24.0%	21.9%
農学部	0.0%	0.0%	1.5%	1.5%	10.3%	13.8%	34.0%	32.0%	34.5%	35.0%	19.7%	17.7%
法文学部	0.3%	0.3%	1.7%	1.2%	10.2%	11.9%	34.3%	33.1%	34.0%	38.7%	19.5%	14.8%
理学部	0.0%	0.6%	2.9%	2.9%	12.6%	16.6%	33.7%	33.1%	29.7%	29.7%	21.1%	17.1%
全学	0.5%	0.2%	1.9%	1.8%	11.6%	14.8%	32.8%	34.0%	33.9%	33.8%	19.3%	15.4%

1. (B1.1) 使える語句や表現をつないで、自分の経験や夢、希望を順序立て、話を広げながら、ある程度詳しく語ることができる												
学部	じゅうぶん できる		ほとんど できる		どちらかといえば できる		どちらかといえば できない		ほとんど できない		まったく できない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	0.0%	0.0%	7.7%	3.3%	40.7%	38.5%	29.7%	37.4%	19.8%	16.5%	2.2%	4.4%
共同獣医学部	10.3%	0.0%	6.9%	10.3%	27.6%	24.1%	24.1%	31.0%	27.6%	31.0%	3.4%	3.4%
教育学部	1.9%	0.5%	6.0%	5.1%	38.9%	38.0%	31.0%	32.9%	16.7%	17.6%	5.6%	6.0%
工学部	1.4%	0.7%	3.2%	2.8%	32.1%	32.3%	31.7%	36.0%	22.7%	21.6%	8.9%	6.7%
歯学部	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	50.0%	50.0%	25.0%	25.0%	12.5%	12.5%	12.5%	0.0%
水産学部	0.7%	0.7%	6.2%	6.8%	24.7%	22.6%	41.8%	34.9%	16.4%	24.7%	10.3%	10.3%
農学部	1.0%	0.0%	2.5%	4.4%	27.6%	32.5%	34.5%	34.0%	27.6%	24.1%	6.9%	4.9%
法文学部	1.2%	0.9%	5.8%	5.2%	30.5%	33.7%	35.2%	42.7%	22.7%	14.8%	4.7%	2.6%
理学部	2.9%	4.0%	5.7%	4.0%	30.3%	35.4%	33.7%	32.0%	20.6%	20.6%	6.9%	4.0%
全学	1.5%	0.9%	4.9%	4.5%	31.7%	33.1%	33.5%	36.2%	21.6%	20.0%	6.8%	5.3%

2. (B1.1) 自分の考えを事前に準備して、メモの助けがあれば、馴染みのあるトピックや自分に関心のある事柄について語ることができる												
学部	じゅうぶん できる		ほとんど できる		どちらかといえば できる		どちらかといえば できない		ほとんど できない		まったく できない	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学部	1.1%	0.0%	14.3%	5.5%	37.4%	49.5%	29.7%	27.5%	15.4%	14.3%	2.2%	3.3%
共同獣医学部	17.2%	0.0%	3.4%	10.3%	31.0%	20.7%	27.6%	41.4%	20.7%	24.1%	0.0%	3.4%
教育学部	1.9%	2.3%	11.6%	8.8%	43.1%	41.7%	21.3%	25.5%	16.7%	14.8%	5.6%	6.9%
工学部	3.2%	2.1%	7.3%	7.1%	39.9%	38.1%	26.4%	28.4%	16.5%	18.3%	6.7%	6.0%
歯学部	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	62.5%	75.0%	25.0%	12.5%	0.0%	12.5%	12.5%	0.0%
水産学部	4.8%	2.7%	8.9%	11.6%	36.3%	36.3%	26.0%	23.3%	17.1%	17.8%	6.8%	8.2%
農学部	1.5%	1.5%	6.4%	11.8%	38.4%	38.4%	29.6%	26.1%	18.2%	17.2%	5.9%	4.9%
法文学部	2.6%	3.5%	12.8%	14.0%	44.5%	45.9%	21.8%	24.1%	13.4%	10.8%	4.9%	1.7%
理学部	5.7%	5.1%	10.3%	13.1%	35.4%	42.3%	22.3%	22.3%	17.1%	13.1%	9.1%	4.0%
全学	3.2%	2.5%	9.6%	10.3%	40.1%	41.0%	24.9%	25.8%	16.1%	15.4%	6.0%	4.9%

### C-3 学生によるアンケート結果に係る今後の課題

以上のデータから明らかにされた点、つまり今後の教授・学習上の課題について整理しておきたい。セクションごとに要点化していく。

#### <Part I>

##### (英語運用能力に関する技能別観点) (28 問)

#### [A] 英語によるライティングに関して

ミクロレベル(文法、綴り、句読点等)に対して、マクロレベル(内容・論理構成)の運用能力に対して自己評価が低くなっている。これは高校では習得すべきライティング知識・課題として英語授業で扱われていない部分である。大学授業(前期・後期の1年間)を通して継続・系統的な指導が求められる。

#### [B] 英語のリスニングに関して

一方向的な流れに止まっている。聴き取りはできたとしても、その内容をもとにした切り返し(やりとり)能力、すなわち確認、質問、意見、助言行為となると、自己評価が低い。大学受験(センター試験、リスニング)対策の学習レベルで留まっていることが背景にある。リスニングとは聴き取りではなく、やりとりを前提としている。このような新たな捉え方(認識)を大学授業・学習の場で継続強化し、能力強化に努める必要がある。

#### [C] 英語の音読に関して ※黙読は除外

単語単位(発音記号、アクセント)の発話能力に対して、文単位以上(パラグラフを含む)の音読で求められるチャンキング(区切り方)、連結発音や脱落(リエゾン)、適度な音読速度(wpm)のレベルに対する自己評価が低い。これも受験対策型英語学習から派生した負の結果(学習効果)といえる。高校の英語授業でそのルールを含め、正しい知識習得が行われていないことが原因と考えられる。しかしこれらの音読スキルは発話行為(プレゼンテーションを含む)で重要な役割をもつ。「やりとり」としてのリスニング活動と合わせて、ここで触れた評価の低い音読スキルも継続指導していく必要がある。

#### [D] 英語による発話や表現に関して

受験に課されない領域は、上記の音読試験に加えて、発話(プレゼンテーション)試験である。Show and Tell Practice で示される、個人個人が前に立ってスピーチをするという学習経験が高校英語授業で担保されていなかった可能性がじゅうぶんある。その結果、データが示す通り、kinesics(身体動作学—アイコンタクト、身振り手振り、体の動き)やparalanguage(パラ言語—声調変化による意志・感情表現作法)に対する自己評価が低い。上記の音読スキルと併用した学習体験の積み重ねが必要となる。

その一方で気になるのが、自己説明力である。過去(出身高校)や基本的な情報(出身地、年齢など)は英語で言えても、現在—未来(大学入学と専攻領域の選択説明や理由、将来の人生計画など)に対する説明能力は評価が低い。このコンテキストに沿った英語発話・説明能力を育てていく必要がある。



## <Part II>

(外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠日本人学習者用：CEFR-J) (14 問)

### [A] 書くこと (英語)

自分の身の回りで起きたことなどの説明 (トピック) に対して、必要とされるライティング力、とくにエッセイ作成能力に対する自己評価が低い。エッセイ能力は CEFR-J B レベル (自立した英語学習者) を証明する重要な指標となっている。パラグラフ・ライティングからエッセイ・ライティングへの連動した教授支援体制の確立が不可欠となる。

### [B-(1)] 聞くこと (英語)

メディアや空港アナウンスなど、ネイティブスピーカーが自然な速度で話す英語の理解に対して自己評価が低くなっている。授業で指導すべきは、聴き取りの徹底と合わせて (それ以上に)、内容のメモ取りとそれによる聞き返し (やりとり) というタスクの導入である。それにより、新たなリスニング活動の重要性を理解してもらう必要がある。

### [B-(2)] やりとり (英語)

テーマに関わらず (自身について、最近のニュースについて、その他)、議論というモードに対する自己評価が低い。ディベート授業がその対策として考えられる一方、上で述べたように、メモ取りを加え、内容の集約 (要点・要約) 作業を授業で取り入れる必要がある。

### [C] 読むこと (英語)

インターネットや専門書など、辞書以外の情報媒体へのアクセス力の弱さを示唆している。「テーマを決め、調べて、考えて、論を立てていく」という、大学で求められる一般的なアカデミックスキルを英語を媒体として獲得していく授業づくりが必要である。

### [D] 発表 (英語)

すでにふれた点であるが、入学段階で止まっている状態が見られる。卒業後、あるいは 3 年次の専門課程を今から想像し、具体的な人生スキームを構築していく必要がある。それを具体的に、理由や根拠を交えながら英語で説明できる力が求められる。



### Ⅲ. 平成 28 (2016) 年度導入の新英語カリキュラムに係るテキスト・教材について

これまでの共通教育英語科目(1年次のコア U、コア C、コア R、コア O の技能別と 2 年次の英語オープン)では、これらの技能や内容に基づき、「推奨テキストリスト」を作成し、この中から使用するテキストを決めてきた。このリストでは、個別の機能とさまざまなトピックを盛り込んだテキストに焦点が置かれていた。テキストの内容は、映画、ニュース、環境問題を含む時事問題、医療、TOEIC などの資格試験対策など多様であった。その結果、15 回の授業で身に付けた英語力に疑問が残った。また、共通教育の授業アンケートでは、「テキストが使い切れていない。テキストが高額でもったいない」などの意見が受講者から出ていた。

このようなことを反省し、平成 28 (2016) 年度導入の新カリキュラムでは改善がなされた。新カリキュラムでは共通教育の英語科目の位置付けを変え、それに伴い、推奨テキストの在り方も変わった。英語科目を ELA コース(英語 IA、IIA)、EGAP コース(英語 IB、IIB)、ESAP コース(英語 III、英語 IV)、ESP コース(英語 V、英語 VI)に分けた。ただし、共同獣医学部を除く。初年次は ELA コースと EGAP コースを開講し、1 年生は英語 ELA コース(英語 IA、IIA)では、音読、リーディング、リスニングに焦点が当てられ、全学部共通の推奨テキストとなった。上級から初級、基礎まで全部で 20 冊のテキストを選定し、サブテキストとして、リスニングに特化したものも加えられた(巻末資料 1-1)。また、テキストの利用だけでなく、学習進度、学習意欲、授業活動、課題の取組み具合をもとに、独自の教材を活用することも認めた。基本的に前期と後期の 1 年間で共通の選定テキストを使用することを基本とした。前期と後期で担当教員が変わる場合、テキストの使用状況などを記した申し送り表を作成し、後期担当者に送ることとした。

EGAP コース(英語 IB、IIB)では、ライティング、スピーキング、プレゼンテーションに焦点が当てられ、①理学部・工学部・農学部・水産学部専用、②医学・歯学部専用、③法文学部・教育学部専用ごとに推奨テキストリストを作成した。カテゴリーごとに上級から初級、基礎まで全部で 20 冊前後のテキストをそれぞれ選定した(巻末資料 1-2-1～巻末資料 1-2-3)。サブテキストとして、プレゼンテーションに特化したものを必携テキストとした。また ELA コースと同様に、テキストの利用だけでなく、学習進度、学習意欲、授業活動、課題の取組み具合をもとに、独自の教材を活用することも認めた。基本的に前期と後期の 1 年間で共通の選定テキストを使用することを基本とした。前期と後期で担当教員が変わる場合、テキストの使用状況などを記した申し送り表を作成し、後期担当者に送ることとした。

すなわち、ELA コースでは全学部共通推奨テキスト 1 冊に加え、教員によりリスニングに特化したテキストの 1～2 冊が、EGAP コースでは各カテゴリー別の推奨テキスト 1 冊に加え、プレゼンテーションに特化したテキスト 1 冊の計 2 冊を使用して授業をすることとした。

平成 28 (2016) 年度の前期が終わった 8 月には FD としてワークショップを開催し、テキストの使用方法や授業内容に関する意見交換が行われた。参加者の中から、「テキストを 2 冊使用することは時間的に難しい。前期でテキストを半分終わらせるのは難しい。選べるテキストが少ない。EGAP は教える内容がライティング、スピーキング、プレゼンテーションと多岐にわたるため教えるににくい。また、英語を書くことができないので、プレゼンテーシ

ョンのスク립トを英語で書くのは無理である」などの意見が出された。その意見を反映し、平成 29（2017）年度の共通教育の英語科目は教えるスキルと推奨テキストリストの見直しを行った。

#### A. 平成 29（2017）年度のテキスト教材について

平成 29（2017）年度の共通教育英語科目は前年のものを踏襲し、内容を部分的に変更した。ELA コース（英語 IA、IIA）のリーディングはそのままとしたが、教える内容をリベラル・アーツの英語ということで、専門性の強いテキストを外し、一般的な広いトピックを扱うものに変更した。また、専門性の強いテキストは英語 IV の推奨テキストに入れることとした（巻末資料 2-1）。EGAP コース（英語 IB、IIB）の英語 IB ではライティング、英語 IIB ではスピーキング／プレゼンテーションを教えることとし、推奨テキストリストも見直された。また、推奨テキストも旧カリキュラムのように冊数も増やした（巻末資料 2-2）。

同時に、平成 29（2017）年度から ESAP コース（英語 III、英語 IV）が始まるため、英語 III と英語 IV の推奨テキストリストの作成も行った（巻末資料 2-3、巻末資料 2-4）。ただし、英語 III と英語 IV で使用するテキストに関しては、推奨テキストの利用は任意（担当教員の判断）とし、独自の教材利用も可能とすることとした。また、全員 1 年次にプレゼンテーションの必携テキストを持っていることを前提とし、このテキストを繰り返し使用し、応用して授業をすることも提案されていた。

英語 IIB はスピーキング／プレゼンテーション、英語 III は 1 年次に学んだ技能統合の段階と位置づけ、学部や学生の専攻に焦点を当てたスピーキング／プレゼンテーションを扱うことになっていた。この両科目は似ているため、1 つの推奨テキストリストとした。しかし、その後、英語 III を担当する教員から、英語 IIB で使用したテキストを 2 年次の英語 III で繰り返し使用することを避けたいので、推奨テキストリストを英語 IIB と英語 IV で分けて欲しいとの要望があり、平成 30（2018）年度の推奨テキストリストから分けるところとなった。

英語 IV では学部や学生の専攻に焦点を当てたリーディングに焦点を当てたテキストを選び、推奨テキストリストを作成した。また、先にも触れたように英語 IV の推奨テキストリストには、平成 28（2016）年度の英語 IA、IIA で使用した専門色の強いテキストが加えられたが、前年度に学習したテキストとの重なりを避けるため、平成 29（2017）年度はリストに加えないこととし、平成 30（2018）年度の推奨テキストリストから加えることとした。そのため、平成 29（2017）年度における英語 IV の推奨テキストリストは 17 冊のみとなった。

#### B. テキスト・教材に係る今後の課題

このように共通教育の英語科目におけるテキストや教材は、新カリキュラムになった際に大幅に見直されてきた。また、その後、実際の授業などを通し、教員などからの要望に沿う形で、年々、調整が行われてきている。

今後は、新カリキュラムの学習目標にさらに合うような英語のテキストを増やし、推奨テキストリストの充実を図っていく必要がある。

#### IV. 平成 29 (2017) 年度 FD ワークショップについて

平成 28 (2016) 年度からの共通教育英語新カリキュラムの導入に伴い、外国語教育部門として、本年度も引き続き教員ワークショップを 2 回実施した。

##### A. 平成 29 (2017) 年度第 1 回 共通教育センター教員ワークショップ

第 1 回目は平成 29 (2017) 年 8 月 9 日 (水) 13:00~15:00 に、「英語のクラスにおける授業改善と教授法向上に向けて II」と題し、郡元キャンパス共通教育棟 (1 号館 4 階 Common Room 2) にて開催した。参加対象者は、外国語教育に関わっている全教員 (専任教員、非常勤講師) とした。前年度の第 2 回のワークショップの内容をさらに深め、技能別に授業で実践できる指導法の紹介や参加者同士の意見交換をとおして、授業改善に活かしてもらうことを趣旨にした。ディスカッションの時間を充分確保できるように、2 つのセッションに絞り、各テーマを分けて行った。今回取り扱ったテーマは Writing、Speaking、Speech、Presentation、CLIL、Listening、Reading と Active Learning であった。第 2 回のワークショップでは、ゲスト講師をお招きし、CLIL (Content and Language Integrated Learning) をテーマとした講演を計画していたため、今回のセッションテーマに CLIL も含めた。

当日の参加人数は合計 20 名 (理学部 3 名、理工学研究科 1 名、医学部保健学科 1 名、グローバルセンター 1 名、共通教育センター 9 名、非常勤講師 5 名) であった。事後アンケートの回答では (回答者 15 名)、6 名はワークショップの内容が「非常に有意義だったと思う」、5 名が「少し有意義だったと思う」と回答した (他 4 名は無回答)。感想として、「新しい教授法を得られた」、「各教員の立場や担当科目によって多様な問題があることがわかった」、「プレゼンテーションの準備としてビデオを利用する方法を学んだ」、「レベルに応じてグループ活動を効率よく取り入れる方法を学んだ」等の回答があった。特に、「教員同士で授業に関する情報交換ができ、後期の授業に活かしたい」という内容の回答が多かった。しかし一方で、「各セッションの時間が足りなかった。話がこれからという時点で、セッションが終わってしまった。」という意見もあった。今後のワークショップへの要望として、「授業で活用できるような、より実践的な教授方法を知りたい」、「教員による模擬授業を行って欲しい」、「(ワークショップへの参加にあたり) 非常勤講師への報酬支給について検討してもらいたい」、「共通教育の英語の授業と専門英語の授業の連続性を議論してほしい」、「授業見学 (研究授業) + 意見交換の機会があるとありがたい」、「e-learning の授業への導入について学びたい」、「引き続き、ディスカッションを行いたい」等の意見や要望があった。

成果として、新カリキュラムを導入してから授業の在り方をまだ模索している中、他学部の教員、共通教育センター英語教員と当センターの非常勤講師が情報交換を行うことで、後期の授業改善につながる機会を設けることができた。

##### B. 平成 29 (2017) 年度第 2 回共通教育センター教員ワークショップ

第 2 回目は平成 30 (2018) 年 2 月 13 日 (火) 10:30~14:55 (12:10-13:20 昼食) に、「CLIL (Content and Language Integrated Learning) の理論と実践について学ぶ」と題し、郡元キャンパス共通教育棟 1 号館 4 階 Common Room 2 にて開催した。参加対象

者は、共通教育英語専任教員、非常勤講師（希望者のみ）、高等教育機関にて専門分野を英語で教授することに関心を持っておられる方、またその他、本ワークショップに関心のある方とした。今回の趣旨は CLIL（Content and Language Integrated Learning：内容言語統合型学習）について学ぶため、ゲスト講師をお招きした講演会を開催し、CLIL の理論と高等教育機関におけるその実践について学び、授業に反映させることであった。講師には池田真氏（上智大学文学部英文学科教授・文学部英文学科長）をお招きし、“Teaching English with Content and Teaching Content in English、Experiencing CLIL as Competency-Based University Education” という講演題目で、午前と午後の部に亘り開催した。午前の部は、なぜ日本の英語教育において CLIL が必要なのか、CLIL 理論・教育法及び教材について講演がなされた。午後の部では、CLIL を実践した模擬授業が行われた。

当日の参加人数は合計 20 名（理工学研究科 4 名、グローバルセンター 1 名、医学部保健学科 1 名、共通教育センター 8 名、非常勤講師 6 名）であった。事後アンケート（回答者 17 名）によると、16 名が「ワークショップは有意義だったと非常に思う。」、1 名が「有意義だったと少し思う。」と回答した。ワークショップの感想として「CLIL に関する様々な知識を整理することができた。午後のワークショップでは CLIL を体験でき、午前中の理論をより深く理解できた。」「教材の準備の重要性がよくわかりました。」「そもそも CLIL どころか教育方法論について何も学んだことがなかったのでとても新鮮でした。単なる英語を取り入れた教授法ではなく、思考力や包括的な教育法であることを学び、参考になりました。」「自分の授業で『こんな授業をするのが必要だ』と思っていたことが理論的に説明されて、自分の考えがまちがっていないと思い、とても勇気づけられました。今後の授業に生かしたいです。」「今後の参考になる情報を得ることができた。具体的な例を多数挙げて説明されたので分かりやすかった。」等の回答があった。また、今後のワークショップへの要望として、開催日についてもっと検討してもらいたい、予定調整のため開催のお知らせをもっと早い時期にしてもらいたい等があった。

成果としては、CLIL について初めて学ぶ多くの教員が、理論とともに CLIL 授業の実践について学び、体験できたことで次年度の授業改善へのヒントを得られたことである。他学部の教員にも深く関連する内容であったため、より広い範囲で次年度の授業の参考にしてもらえるのではないかと思われる。なお、昼食時間に講演者と教員（希望者のみ）が CLIL 及び鹿児島大学等について自由に話す機会もあり、情報交換とともに CLIL についての知識をさらに深めることができた。

### C. FD ワークショップに係る今後の課題

本年度は、新カリキュラムへ移行してから 2 年目になる。昨年度の授業経験及びワークショップ等の内容を参考にしながら、教員各々が授業の方向性を少しずつ確立させた時期であった。今後も、共通教育の英語教育について専任と非常勤講師が綿密に連絡を取り合い、情報交換と新しい英語教授法を学ぶことができる機会を設ける必要がある。なお、本年度の第 2 回のワークショップのように、他学部にも関わりのある内容は、日程調整の工夫とより早い時期にお知らせすることを心掛け、情報が確実に届くような連絡方法・手段を検討する必要がある。今後の課題としては、他学部と綿密に連携を取りながら共通教育の英語授業を充実したものにすることが挙げられる。

## V. 平成 29 (2017) 年度後期試行の外国語ラウンジ LOL (Languages Out Loud) について

### A. 外国語ラウンジの英語に係る実施概要

平成 30 (2018) 年度での外国語ラウンジの設立へ向けて、平成 29 (2017) 年度後期より、外国語ラウンジが仮オープンした。英語の仮セッションは、後期二週目から十週間にわたり、週三回、火曜日、木曜日の 5 限、金曜のランチタイムに行われた。

次年度の本格的なラウンジのオープンへ向けて、英語のセッションに参加した学生、参加しなかった学生を対象にそれぞれアンケートを行ったところ、アンケート結果から大きく三点の改善点が示唆された。まず、セッション開講時間の変更の必要性である。平成 29 (2017) 年度の英語のセッションには火曜五限、木曜五限、金曜ランチタイムに開講していたが、授業やサークル、アルバイトの関係で、五限の時間帯のセッションへの参加が難しい学生が多くいるようであった。よって、平成 30 (2018) 年度からはランチタイムに英語のセッションを多数開講することとした。改善点第二点は、セッションの内容についての宣伝方法の工夫である。セッションに参加しなかった学生は、セッションの内容や雰囲気に対して不安を抱えているようである。また、セッションに参加した学生からは、チラシやポスター、映像による宣伝などが、参加者を増やす対策として挙げられた。よって、平成 30 (2018) 年度からは、Facebook や Instagram 等の SNS をより活用して、参加者が楽しく英語を学んでいる様子を随時学生向けに発信することとした。最後に、内容をより充実させてイベント等を行うことである。セッションに不参加だった学生からはムービーナイトなどのイベントへの要望も多かった。よって、これを参考に、平成 30 (2018) 年度のセッションでは、より多くのイベントを計画していきたい。

アンケートを基にした平成 30 (2018) 年度へ向けての改善点として、①開講時間の変更、②宣伝方法の工夫、③内容の充実が検討されることになった。学生が授業外で英語に触れる機会を増やすために、学生にとって参加しやすい、親しみやすい雰囲気をもったセッションを提供することが重要である。学生のフィードバックを取り入れながら、随時改善を行い、より学生にとって魅力的な外国語ラウンジを作っていきたい。

## 参考資料 アンケート結果

### ① 英語のセッションに参加した人、28名

質問項目	回答	人数	割合	回答例
良かった点	ゲームが楽しかった	18	64%	色んなゲームをしたので、ゲームが楽しかったです。
	方言の違いなどを知れた	2	7%	イギリス英語とアメリカ英語の違いがわかった。
	意見を交換できた	5	18%	結婚に対する意見交換をした時間は、婚約に対する様々な意見が聞けて楽しかった。
改善できる点	ちょうど良い時間帯がない	4	14%	二回参加しましたがなかなか時間が合いませんでした
	人数が多すぎる	1	4%	人数が多くて聞こえなかった。
	レベルの違いで話にうまく参加できない	7	25%	レベルが高い人と英語に苦手意識のある人が一緒に参加していたため、苦手意識が高まってしまった。
参加者を増やす方法	参加を英語の授業の評点に入れて評価する	5	18%	とってる英語の授業の点数を少しでもアップしてもらえたら時間が空いたりしたら行く人も増えるのかなと思う。
	参加の様子を映像で見せる	4	14%	実際の活動の映像の視聴などで具体的にどういうものかわかると思う。
	体験授業を行う	3	11%	英語の授業で1度だけ参加させるようにしたら自分に合うのかどうか分かると思う。
	チラシ、ポスター、授業での宣伝	6	21%	チラシを配る。
	飲食ができるようにする	1	4%	専用の部屋を大きくしたり、建物を作ったりして食事などして楽しめるカフェのような感じにする。

② 英語のセッションに参加しなかった人、76名

質問項目	回答	人数	割合
英語への印象	英語が好き	32	42%
	英語が嫌い	42	55%
	どちらでもない	2	3%
英会話への印象	英会話をしてみたい	54	71%
	英会話をしてみたくない	23	30%
不参加の理由	時間帯が合わない	33	43%
	アルバイトが忙しい	13	17%
	そもそも人と話すのが苦手	10	13%
	英語を話せるようにならなくてもいい	4	5%
	難しそうに思えた	24	32%
	英語恐怖症です	8	11%
	P-SEGに参加している	0	0%
	部活やサークルが忙しい	18	24%
	一人で参加することに気が引ける	21	28%
	何をしているのかよくわからない	17	22%
	LOLのことを知らなかった	6	8%
	参加したいと思わなかった	1	1%
参加したいActivity	Songs	23	30%
	Games	38	50%
	Quizzes	23	30%
	Guest speakers	6	8%
	Debates	3	4%
	Discussion	4	5%
	Movie nights	30	39%
	そのほか	2	3%
希望する時間帯	3 限	12	16%
	4 限	13	17%
	5 限	19	25%
	ランチタイム	16	21%
	放課後	6	8%
	休日	3	4%

## VI. 平成 29（2017）年度留学生の習熟度クラス調整について

鹿児島大学のグローバル化促進のために、外国人交換留学生たちがスムーズに鹿児島大学のスタディプログラム（コースや授業）に順応、適応できるように努めるのは重要である。

### A. 平成 29（2017）年度留学生の習熟度クラス調整について

留学生が鹿児島大学のコースなどに適応する手助けの一つは、留学生が各自の適切な英語レベルで学習できる英語 IA、IIA、IB と IIB クラスの受講である。そのレベル分けとして、平成 29（2017）年度（とその前の何年も）「1 対 1」のインタビューを留学生に行った。

この形式によるレベル分けにより、各々の留学生に最適な英語クラス提供ができるようになった。

しかしながら、この方法の欠点は、インタビューアーとのアポイントメントをとる日程を十分に設定していたが、何人かの留学生はそれらの英語のコースが始まるまでに、インタビューを受けに来なかった。

## B. 平成 30 (2018) 年度留学生の習熟度クラス調整について

平成 30 (2018) 年度の留学生の習熟度クラス調整は、平成 29 (2017) 年度と違う方法にした。スピーキングテスト（つまり、インタビュー）を廃止し、代わりに文法・語彙力中心のテストを実施した。スピーキングテスト自体には問題が今まで殆どなかったが、留学生全員一人一人にインタビューを行うのに時間がかかり過ぎてしまって、インタビューという形では無理を感じるようになってきた。例えば、平成 29 (2017) 年度には、4 月にある授業開始日までに留学生のクラス分けが決まらない事態が生じ、ペーパーテストに変更することに決定した。

文法・語彙力中心のペーパーテストではテスト結果がすぐに分かって、事務的処理が早くなる一方、文法・語彙力中心のテストでは、一部の留学生にとって不利になる可能性もある。平成 30 (2018) 年度にはこれに関して大きい問題はなかったが、これからこのようなペーパーテストの良し悪しを見極める必要がある。

## Ⅶ. 平成 29 (2017) 年度入学者の共通教育英語に係る学修支援について

タイトルには、学修支援としてあるが、「学修」には、当該クラスの履修を強調する含みがある。もちろん、より広い概念である「学習」としても差支えはない。共通教育カリキュラムとの連携を意識したため、表題では「学修支援」としたが、支援という言葉との相性や、次にふれる補習、補完と、大学院生による支援を含めて学習支援と表してもよいであろう。

「支援」の含みには、助け支えるという意味合いがある。何らかの事情による不足等の補いが含意されている。本学の場合、便宜上、補習教育と補完教育を区別して用いることがある。補習教育は、(入学前までに必要な高等学校等での履修科目を前提にして)「未履修科目のある学生に対する入学前後の教育」とし、他方、補完教育とは、「入学後の共通教育、特に、専門教育との橋渡しとなる「基礎教育」に相当するような科目において不合格だった学生や、低学力の学生、学力不足を実感した学生に対する教育」としている。

学習支援という観点から、より全体的にみれば、視覚、聴覚等になんらかの支障のあることが事前に相談されていれば、各教員には教務経由で連絡が届く。とにかく、何かしらクラスの中でピンと気づくことがあれば、教員側からは適宜、学生が所属する学部の担任教員や障がい学生支援センターへ連絡が取れる体制となっている。同センターや学内 FD などを通して、必ずしも目には見えない障がいを有する学生の増加が指摘されている。教員側の何らかの気づきが、学生のみならず教員をも支える学内の諸体制によって、より広く、深く気づかされることが少なくない。経験的にも、一人の学生に対する新しい配慮は必ずや、クラスの他の学生たちへの修学、学習のあり方にもよい影響を与えることにつながるはずであ



る。気づきを手がかりに、授業改善や教授法の向上へつなげてゆくことが可能である。当該の学生のみならず、少しずつ全体がよくなっていく経験を広げていければ幸いである。先の気づきに係るやりとりは、障がい学生支援センターをはじめ、各部局の学生担当窓口、保健管理センター等によって支えられている（cf. 学生何でも相談室、男女共同参画推進センター、就職支援センター）。

以下、共通教育英語に係る学修支援について、入学前・後の補修教育との連携に主眼を置いて記す。

#### A. 学修支援の実施概要

平成 29（2017）年度入学生については、教育、理、工、農、水産の 5 学部の主に AO、推薦Ⅰ、推薦Ⅱ入試の入学者が補習教育（数学、物理、英語；英語は全学統一科目）の対象。補習教育は入学前と入学後とに分かれている。概要について以下の 3 点を記す。

1. 入学前・補習教育（e-Learning 英語）の受講者 62 名（＝AO、推薦Ⅰ入試の入学予定者）：平成 29（2017）年 1 月 16 日～3 月 30 日；平成 29（2017）年 3 月 31 日～4 月 28 日も利用可）
2. 入学後・補習教育（単元マスター型短期集中授業の受講者 62 名（＝主に AO、推薦Ⅰ、推薦Ⅱ入試の入学者、及び希望する学生）：4 月 15（土）、16（日）両日の集中講義（計 6 コマ）
3. 入学後の正規英語カリキュラムでは、英語ⅠA、英語ⅠB とともに初級の基礎クラス（h3）に大半が所属。

これらの状況を踏まえ、入学前、入学後、と共通教育英語カリキュラムの 3 者の連携の在り方が問われていると思われる。

点検・評価の観点から、以下 3 点を挙げる。

1. 平成 25（2013）年度以来、何度か、受講者の名簿を参考に、共通教育系の支援のもと、クラス担当者へ該当者の情報を伝え、適宜、クラス内での配慮の協力依頼を行ってきた。また、年度開始前の 3 月に担当予定教員を含めた連絡情報交換会を開いたことがあった。
2. しかしながら、組織的な連携活動までには、至っていない。
3. 入学前と入学後の補習教育の連携を基礎に、それらと共通教育英語カリキュラムとの連携の在り方を模索する必要がある。入学前、後の補習教育については、費用対効果も視野に入れる。

長所と問題点の観点から、以下の 3 点を挙げる。

1. 入学前・後の補習教育については、両極の学習スタイルが取られている。場所と時間を選ばずに取り組む e-Learning スタイルと時間と場所を統一して指導者のいる場所で取り組む伝統的スタイル。この両者の学習スタイル経験を学習者個人の中でうまく融合させ、

学習効果を高めていく方策を検討できるとよいのではないか。学習効果が総じて高いと評価されている「Blended Learning」的な効果を引き出す工夫はできないであろうか (cf. “blended”には、e-Learning による学習と対面学習との相補的な学習効果を引き出す意味合いがある)。

2. 入学前補習教育における学生のおよそ3ヶ月に亘る取り組み状況をみると、殆どパソコンの前に向かわないかに見える学生が、多くはないが、数名見受けられる。
3. 共通教育英語カリキュラムでは、補習教育対象の学生の大半が、初級クラスの中の基礎クラス (h3) に振り分けられる。教員はもとより、学内の事務部門の理解や協力体制が得られれば、習熟度別のクラス環境を有効活用する余地はさらにあると考えられる。

最後に将来の改善に向けた方策を考えてみたい。次の9点に留意する。

1. 補習教育対象者へ 受講条件 の明示
  - 1) 補習教育の目的 (大学科目の履修に備える) と目標 (最低限、ワオ・システムの学部別指定のステップを目指す; 余力次第で高校3年レベルまでを展望) について、受講生へ周知徹底する。
  - 2) 学習のスピードや成果に個人差はある。しかし、その継続に励むよう努め、実践を促していく。
2. 教育的配慮の面から、当該の共通教育英語担当者との 情報共有
  - 1) 学生の氏名等
  - 2) 前期または後期の単位取得可否。
  - 3) 入学前補習 (e-Learning) の取り組み状況 (学習 step の進捗度)
  - 4) 入学前補習 (e-Learning) の学習内容 (事前・修了テスト結果の一覧とテスト 50 問の全容)
3. 上記2の1) から4) の情報を前提に、学生の後期クラスでの取り組みを支援していただく協力要請を行う。当面の支援内容は、当面、現場の判断に委ねる。  
○前期または後期のクラスでは、その学習内容との関連で、補習教育での学習内容にも関連付けて指導いただけることがあれば、期間内に関連づけて、ご指導いただく。
4. 前期であれば成績報告時またはお盆前までに、後期であれば、年末頃までに、取り組み状況等に係る所見を知らせていただく工夫を講じる (簡便なシート等の利用)。
  - ・当該学生に関する所見
  - ・現場の判断に基づく支援内容
  - ・連携の在り方について気づかれた点など。(次年度への改善点につなげる)
5. 平成30 (2018) 年度入学生について、入学前補習での学習内容を入学後補習教育の担当者へ事前に連絡し (弱点や具体の英語学習上の典型例文) 含めた授業をしていただけるようお願いをする。終了後には、その所見 (改善策や共通教育への連携に係るヒント等) の提供依頼。
6. 平成29 (2017) 年度入学生の1年次の取り組みの留意点などを平成30 (2018) 年度前期における当該の共通教育英語担当者 (英語Ⅲ、英語Ⅳ) へ申し送り、指導上の情報共有を図る。

7. 組織的な運用開始時期は、平成 30（2018）年度となるが、本格実施に備え、平成 29（2017）年度後期からも可能な範囲でパイロット的な試行を部分的に行う。
8. 支援方法は多様であることが望ましい。現行の大学院生による学習支援に英語も含めてくださるよう、教務委員会へ検討依頼。
9. PDCA サイクルに乗せながら、実態に合った改善を図っていく。

## B. 学修支援に係る今後の課題

平成 29（2017）年度ならびに平成 30（2018）年度対象学生への取り組みについてみると、特に授業担当者間の情報共有のやりとりの利用はおよそ 3 割程度であった。また、教員間の情報の連絡に係る事務負担が少なくないようである。総じて、補習支援は組織的な展開が容易には見込めない状況とみられる。その背景の一つには、補習教育対象者が現況を見る限り、我々の予想以上に学業面で健闘しており、単位取得が危ぶまれたり出席状況に懸念が生じるような案件が極めて少ないという状況があるように思われる。当面は、現行の授業進度に係る連絡シートの一部を用いて、必要に応じて、前期担当者から後期担当者へ取り組み状況等を申し送るというスタイルをとることとなる見込みである。

## VI. 結語

本報告書は、共通教育センター英語プログラム全般に関する分析・評価として考えたものである。いわゆる PDCA サイクルで言えば、Plan は現カリキュラム等を計画していた平成 27（2015）年度の頃になる。その次、Do は平成 28（2016）年度から 2 年の間、現カリキュラムを実行した頃になる。従って、この報告書は主にプログラム全般の Check（検証）のためだと考えている。平成 31（2019）年度から、主に Act（改善に取り掛かっていく）段階に移ると考えている。

## 謝辞

本報告書で触れた教育活動の背後では、多くの方々が関わって下さった。本学の清原貞夫教育担当理事、飯干 明 共通教育センター長、ならびに、内山 修一 学生部長、安田 和義 共通教育課長をはじめ、事務方スタッフ諸氏からは、有形無形の多くのご支援を頂戴した。英語外部試験 GTEC の具体的運用や成績結果のとりまとめに関しては、ベネッセ i-キャリアのスタッフ諸氏、とりわけ藤井 公雄氏、佐藤 昭夫氏、賀門 俊裕氏、ならびに株式会社グローバルキャスト G-TELP 日本事務局の沼田 剛史氏より、惜しみない多くのご支援を賜わった。ここに記して心より御礼申し上げる。

学内外の教育関係の皆様にも、ひきつづき、お見守りとともに、折々のご指導ご鞭撻を衷心よりお願い申し上げます。

# 巻末資料

<巻末資料1-1>				
ELAコース (英語IA, IIA) 全学部共通 *共同獣医学部を除く				
分類	レベル	テキスト名	出版社	参考: CEFR レベル
1 ELA	初級(h3)	Reading in Action: Basic	Kinseido	
2	初級(h)	Q: Skills for Success speaking/listening level 1 (A1)	Oxford	A1
3	初級(h)	Reading Explorer 1	Gengage Learning	A2-B1
4	初級(h)	Power-Up English <Pre-Intermediate>	Nan'un-do	
5	初級(h)	You, Me and the World 2nd. edition	Kinseido	
6	初級(h)	Story Box	Gengage Learning	
7	初級(h)	Stretch 1	Oxford	A2
8	初級(h)	Reading Pass 1	Nan'un-do	
9	初級(h)	Mystery Break	Gengage Learning	
10 ELA	中級(p)	Reading Pass 2	Nan'un-do	
11	中級(p)	Reading Explorer 2	Gengage Learning	B1
12	中級(p)	Lecture Ready 1	Oxford	B1
13	中級(p)	Q: Skills for Success speaking/listening level 2	Oxford	A2
14	中級(p)	21st Century Reading Level 1	Gengage Learning	B1
15 ELA	上級(v)	Q: Skills for Success speaking/listening level 3	Oxford	B1
16	上級(v)	Reading Explorer 3	Gengage Learning	B1-B2
17	上級(v)	21st Century Reading Level 2	Gengage Learning	B1-B2
18	上級(v)	21st Century Reading Level 3	Gengage Learning	B2
19	上級(v)	21st Century Reading Level 4	Gengage Learning	B2-C1
20	上級(v0)	Unlock 4 (Reading & Writing)	Cambridge	B2
*	全学部	Listening Trainer for English Communication	Nan'un-do	補助教材
	※1:	初級(h)レベルにはh基礎(h3)レベルのテキストを含む		
	※2:	上級(v)レベルにはvプラス(v0)レベルのテキストを含む		
<p>注意事項 (1) 基本的に前期(ELA I)と後期(ELA II)の1年間、選定テキストを使用。前・後期で担当教員が変わる場合、前期終了後、後期への申し送り(テキスト利用状況について)を確実にする。担当教員間の連絡方法案(e.g. 連絡シートの活用)を現在検討中。</p> <p>(2) ELAでは各レベル(初級、中級、上級)をもとに、担当クラスに適合したテキスト選定を上記リストから行う(註: 従来の選定方式と同じ)。このメインテキストに加え、* の補助教材(発話と音読のスキルアップ用テキスト)も必要であれば併用し、シラバス「参考書」欄に明記する。</p> <p>(3) 1年間(合計30回の授業)を通して、テキストを「使い切る」ことが重要。なお、後期の継続使用も考え、「テキスト利用」だけでなく、学習進度、学習意欲、授業活動、課題の取り組み具合をもとに、独自の教材を活用することも可能(進度調整)。</p>				

<巻末資料1-2-1>				
		EGAPコース (EGAP I, EGAP II) 理・工・農・水産学部 専用		

<巻末資料1-2-2>				
EGAPコース (EGAP I, EGAP II) 医・歯学部 専用				
		</		

<巻末資料1-2-3>				
EGAPコース (EGAP I, EGAP II) 法文・教育学部 専用				

＜巻末資料2-1＞						
英語IA, IIA (Reading)						
			</			



＜巻末資料2-2＞						
英語IB（Writing）						
Level	Title	Author(s)	Publisher	Text Type		CEFR Level
				Text Only	w/Online Workbook etc.	
1	v*	Great Writing 4: Great Essays	Keith S. Folse et al.	Cengage Learning	○	○
2	v*	Effective Academic Writing 3: The Researched Essay 2nd Edition	Rhonda Liss	Oxford	○	
3	v-p	The Way to Effective Writing	Kate Elwood et al.	Nan'un-do	○	
4	v-p	Get Your Message Across II From Paragraph to Essay	Hisatake Jimbo et al.	Nan'un-do	○	
5	v-p	Comprehensive Writing	Takayuki Ishii et al.	Cengage Learning	○	
6	v-p	Working Together!	Loran Edwards	Cengage Learning	○	
7	v-p	Great Writing 3: From Great Paragraphs to Great Essays	Keith S. Folse et al.	Cengage Learning	○	○
8	v-p	Basic Steps to Academic Writing: From Paragraph to Essay	Matthew A. Taylor et al.	Cengage Learning	○	
9	v-p	Writing Essays: From Paragraph to Essay	Dorothy E. Zemach et al.	Macmillan	○	B2
10	v-p	Longman Academic Writing Series Level 2: Paragraphs 3rd Edition	Ann Hogue	Pearson	○	
11	v-p	Writing from Within 2 2nd Edition	Curtis Kelly et al.	Cambridge	○	
12	v-p	Effective Academic Writing 2: The Short Essay 2nd Edition	Alice Savage et al.	Oxford	○	
13	p	English Writing Global Communication	Adachi Kazumi et al.	Kinseido	○	
14	p	Writing Plus!	Alan Jackson	Kinseido	○	
15	p	Writing Frontiers	Tama Kumamoto et al.	Kinseido	○	
16	p	Primary Course on Paragraph Writing	Yoshihito Sugita et al.	Seibido	○	
17	p	Genre Approach to Paragraph Writing	Yoshihito Sugita et al.	Seibido	○	
18	p	Smart Writing: Active Approach to Paragraph Writing	Miyako Nakaya et al.	Seibido	○	
19	p	Skills for Better Writing Revised Edition	Yumiko Ishitani et al.	Nan'un-do	○	
20	p	Get Your Message Across	Hisatake Jimbo et al.	Nan'un-do	○	
21	p	Working Up to Paragraph Writing	Mitaka Yoneda et al.	Asahi Press	○	
22	p	Can't Stop Writing Revised	Manabu Miyata et al.	Sanshusha	○	
23	p	Developing Writing Strategies	S. Kathaleen Kitao et al.	Ikubundo	○	
24	p	A Passage to Paragraph Writing	Kohki Endo	Cengage Learning	○	
25	p	Writing for Fluency and Accuracy	Andy Boon	Cengage Learning	○	
26	p	Great Writing 2: Great Paragraphs	Keith S. Folse et al.	Cengage Learning	○	○
27	p	Writing Paragraphs: From Sentence to Paragraph	Dorothy E. Zemach et al.	Macmillan	○	B1
28	p	Effective Academic Writing 1: The Paragraph 2nd Edition	Alice Savage et al.	Oxford	○	
29	h	Write Me Back Soon!	Keiko Naruoka et al.	Kinseido	○	
30	h	Writing Points!	Takaichi Okuda et al.	Kinseido	○	
31		Out of print (絶版)				
32	h	First Voyage	Keiko Kimura et al.	Nan'un-do	○	
33	h	Primer for English Writing	Tetsuzo Sato	Nan'un-do	○	
34	h	On Your Way to Paragraph Writing	Mistuo Hashimoto	Asahi Press	○	
35	h	Write Your Ideas in 50 Words	Shizuka Tetsuhito	Shohakusha	○	
36	h	Writing Facilitator	Shizuka Tetsuhito	Shohakusha	○	
37	h	English Writing Without Tears	Yoshihiro Nakamura	Shohakusha	○	
38	h	Step-by-Step Basic English Grammar	Naoya Fujita	Asahi Press	○	
39	h	Let's Write!	Hirofumi Tomi	Asahi Press	○	
40	h	Vitamin G	Hideyuki Tera et al.	Cengage Learning	○	
41	h	Get It Down	Neil Cowie et al.	Cengage Learning	○	
42	h	Great Writing 1: Great Sentences for Great Paragraphs	Keith S. Folse et al.	Cengage Learning	○	○
43	h	Writing from Within 1 2nd Edition	Curtis Kelly et al.	Cambridge	○	
※1: v = 上級、p = 中級、h = 初級、h2-3 = 基礎						
v0 = quite advanced level / v = advanced level / p = intermediate level / h = introductory level / h2-3 = quite introductory level						
※2: v* = v0レベル(参考情報)						
v* = v0 level (for your reference)						

＜巻末資料2-3＞						
英語IIB (Speaking/Presentation), 英語III (Speaking/Presentation Focused on Department/Major)						
Level	Title	Author(s)	Publisher	Text Type		CEFR Level
				Text Only	w/Online Workbook etc.	
1	v-p Presentation Workshop	Craig Smith et al.	Kinseido	○		
2	v-p Task-based Rhetorical Structure for EIL Learners	Mariko-Boku et al.	Asahi Press	○		
3	v-p Presentations to Go	Noboru Matsuoka	Cengage Learning	○		
4	v-p World Link 3 3rd Edition	Susan Stempleski et al.	Cengage Learning	○	○	B2
5	v-p Inspire 3	Nancy Douglas et al.	Cengage Learning	○		B1+
6	v-p Discussion Matters	Philip Suthons	Macmillan	○		
7	v-p Speaking of Speech Level 2	Charles LeBeau	Macmillan	○		
8	v-p Presentations in English	Erica J. Williams	Macmillan	○		
9	v-p English Firsthand 2	Marc Helgesen et al.	Pearson	○		
10	v-p Impact Issues 2 New Edition	Richard R. Day et al.	Pearson	○		
11	v-p Impact Listening 3	Kenton Harsch et al.	Pearson	○		
12	v-p Speakout Intermediate 2nd Edition	Antonia Clare et al.	Pearson	○	○	B1
13	v-p Lecture Ready 2	Peg Sarosy et al.	Oxford	○		
14	v-p Q: Skills for Success Listening and Speaking 3	Miles Craven et al.	Oxford	○		
15	v-p Unlock 3: Listening & Speaking Skills	Sabina Ostrowska	Cambridge	○		B1
16	v-p Present Yourself 2 2nd Edition	Steven Gershon	Cambridge	○		B1-B2
17	p For and Against	Gillian Flaherty	Seibido	○		
18	p Chatterbox	Steven Widdows et al.	Nan'un-do	○		
19	p Your First Speech and Presentation	Kobayashi Toshihiko	Nan'un-do	○		
20	p Say It with Skill	Kate Elwood	Nan'un-do	○		
21	p Successful Presentations	Mark D. Stafford	Cengage Learning	○		
22	p Working in Japan	Alice Gordenker	Cengage Learning	○		
23	p World Link 2 3rd Edition	Susan Stempleski et al.	Cengage Learning	○	○	B1
24	p Inspire 2	Pamela Hartmann et al.	Cengage Learning	○		
25	p Speaking of Speech	David Harrington	Macmillan	○		
26	p English Firsthand 1	Marc Helgesen et al.	Pearson	○		
27	p Speakout Pre-intermediate 2nd Edition	Antonia Clare et al.	Pearson	○	○	A2-B1
28	p Q: Skills for Success Listening and Speaking 2	Margaret Brooks	Oxford	○		
29	p Lecture Ready 1	Peg Sarosy et al.	Oxford	○		
30	p Present Yourself 1	Steven Gershon	Cambridge	○		A2-B1
31	h VOA News Clip Collection	Seisuke Yasunami et al.	Seibido	○		
32	h Speaking in Public	Miyako Nakaya et al.	Seibido	○		
33	h Writing for Presentations in English	Yoshihito Sugita et al.	Nan'un-do	○		
34	h Effective Presentation Skills for Beginners	Tomoko Sugihashi	Asahi Press	○		
35	h How to Avoid Silence	Junko Kobayashi	Sanshusha	○		
36	h Academic Presentation	Yukishige Mitsuko	Sanshusha	○		
37	h World Link 1 3rd Edition	Susan Stempleski et al.	Cengage Learning	○	○	
38	h World English 1 2nd Edition	Martin Milner	Cengage Learning	○	○	A1+
39	h Inspire 1	Douglas Boon et al.	Cengage Learning	○		
40	h English Firsthand Success	Marc Helgesen et al.	Pearson	○		
41	h Speakout Elementary 2nd Edition	Frances Eales	Pearson	○	○	A1-A2
42	h Q: Skills for Success Listening and Speaking 1	Jaimie Scanlon	Oxford	○		
43	h Unlock 2: Listening & Speaking Skills	Stephanie Dimond-Bayir	Cambridge	○		
44	h* English Listening and Speaking Patterns	Andrew E. Bennett	Nan'un-do	○		
45	h* Functional English for Communication	Masamichi Tanaka	Eihosha	○		
46	h* World Link Intro 3rd Edition	Susan Stempleski et al.	Cengage Learning	○	○	
47	h* English Firsthand Access	Marc Helgesen et al.	Pearson	○		
48	h* Project Success 1	Susan Gaer et al.	Pearson	○		A1
49	h* Unlock 1: Listening & Speaking Skills	N.M. White	Cambridge	○		
※1: v = 上級、p = 中級、h = 初級、h2-3 = 基礎						
v = advanced level / p = intermediate level / h = introductory level / h2-3 = quite introductory level						
※2: h* = h2-3レベル(参考情報)						
h* = h2-3 level (for your reference)						
(注)	英語IIIは、推奨テキストの利用は任意(担当教員の判断)、独自の教材利用も可。					
	For English III classes, use of a recommended text is left to the teacher's discretion. It is possible to use other materials with these English III classes.					

<巻末資料2-4>						
英語IV (Reading Focused on Department/Major)						
Level	Title	Author(s)	Publisher	Text Type		CEFR Level
				Text Only	w/Online Workbook etc.	
1	v-p Science Fair	Yoshinobu Nozaki et al.	Nan'un-do	○		
2	v-p Getting to Know Engineering Genres	Junko Murao et al.	Sanshusha	○		
3	v-p Authentic Reader	Kyushu University	Kenkyusha	○		
4	v-p English for Science and Engineering	Ivor Williams	Cengage Learning	○		
5	v-p Academic Connections 3	Julia Williams et al.	Pearson Longman	○		
6	v-p Unlock 3 (Reading & Writing)	Carolyn Westrook	Cambridge	○		B1
7	v-p Oxford EAP Pre-Intermediate	Paul Dummett et al.	Oxford	○		B1
8	p Science Wisdom	Takayuki Ishii	Seibido	○		
9	p Science in Focus	Kevin Cleary et al.	Seibido	○		
10	p AFP Science Report	Atsushi Mukuhira et al.	Seibido	○		
11	p My Home, My English Roots 1	Saito Yoshifumi	Shohakusha	○		
12	p A Visit to Amazing Kansai-based Companies	Osamu Inoue et al.	Shohakusha	○		
13	p Academic Connections 2	David Hill	Pearson Longman	○		
14	p Oxford EAP Elementary	Edward de Chazal et al.	Oxford	○		A2
15	h Science for Everyone	Keiko Hattori et al.	Kinseido	○		
16	h Basic English for Engineers and Scientists	Shingo Uehara et al.	Kinseido	○		
17	h Fundamental Science in English I	Fumiko Ishinuki et al.	Seibido	○		
※1: v = 上級、p = 中級、h = 初級						
v = advanced level / p = intermediate level / h = introductory level						
(注)	英語IVは、推奨テキストの利用は任意(担当教員の判断)、独自の教材利用も可。					
	For English IV classes, use of a recommended text is left to the teacher's discretion. It is possible to use other materials with these English IV classes.					



\*\*\*\*\*

鹿児島大学 平成 29（2017）年度－平成 30（2018）年度  
共通教育英語教育活動報告書Ⅱ  
平成 31（2019）年 3 月 30 日発行

編集・発行：鹿児島大学 総合教育機構 共通教育センター 外国語教育部門（既修語系）  
Nevara, John\*、金岡 正夫\*、高橋 玄一郎\*、原 隆幸、村山 陽平、  
Tremarco, John、Brasier, Anne、Hamciuc Monica、内尾 ホープ、  
藏本 真衣、Gyulemetov Nikolay、日高 佑郁 （\*編集）

〒890-0065 鹿児島県 鹿児島市 郡元 1 丁目－21－30  
TEL: 099－285－3705

\*\*\*\*\*



